

二つとない、をつくる。

不二製油

# FUJI OIL

## CSR REPORT 2013





『二つとない、をつくる。』それは、社名の「不二」から生まれた言葉。

私たち不二製油が2010年10月9日、創業60周年にして初めて掲げたコーポレートメッセージです。

油脂、製菓・製パン素材、大豆たん白の事業領域において、

私たちは常に「人マネをしない」という創業の精神を大切に、お客様と共に製品開発に挑んできました。

二つとない技術・経験・発想の先に、二つとない製品や提案が生まれ、

さらにその先に、お客様との感動、笑顔、喜びが広がっていく。

そんな不二製油のあり方を凝縮したのが、『二つとない、をつくる。』というメッセージ。

これまで60年にわたって築いてきた技術と製品に対する自負。

そして、これから先も、二つとない製品を通じて、皆様のお役に立っていきたい、という決意。

二つの思いを、この言葉にこめました。

それは、社員一人ひとりの志を表すと同時に、不二製油が企業として社会と交わす約束の言葉でもあるのです。

# 二つとない、をつくる。 不二製油



## 写真：豆乳クリーム

大豆に水を加えて分離分画する世界初の「USS製法」によって生まれた大豆素材「低脂肪豆乳」と「豆乳クリーム」を2013年から提供しています。これらの素材は、洋菓子や料理などさまざまな分野での活用が期待されています。

## 編集方針

不二製油グループでは、当社のCSRに対する取り組みを深くご理解いただくため、CSRレポートを毎年発行しています。

本年度は、特にマテリアリティ(重要性)の高い活動についての報告を本レポートで、それ以外の活動報告を含む網羅的な報告をWEBサイトで行うものと位置づけ、マテリアリティの明確化に努めました。

特集ページでは、大豆事業の新たな戦略である「大豆ルネサンス」と、CSR調達推進の一貫として実施したマレーシアのパーム農園の視察結果をクローズアップし、詳しく紹介しています。

活動報告ページでは、CSR活動計画に対する取り組み状況の可視化を目指し、活動実績を中心に掲載しています。一部記事については従業員のコメントも掲載するなど、取り組みの現状がより伝わりやすい報告を目指しました。また、各分掌役員がコミットすることで、目指す姿を明確に示しています。

CSRサイト  
http://www.fujioil.co.jp/fujioil/approach/index.html

## 対象期間

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)の実績です。活動や取り組み内容は一部に過去及び直近のものも含まれます。

## 対象範囲

不二製油(株)単体の活動を中心に掲載しています。環境データについては、国内グループ会社(生産拠点)のトーラク(株)、フジフレッシュフーズ(株)、(株)エフアンドエフを含みます。上記以外を対象とする場合は、データとともに集計範囲を記載しています。

## 発行

2013年9月(次回発行予定は2014年9月)

## 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」  
GRI(Global Reporting Initiative)  
「サステナビリティリポーティングガイドライン第3.1版」

## CSRビジョン

不二製油グループのCSRビジョンは、  
企業理念『「食」の創造を通して、  
健康で豊かな生活に貢献します。』を実現することです。  
「人マネをしない」という創業の精神を胸に、  
食品素材メーカーとして価値ある製品・サービスを提供し、  
社会の皆様から信頼され、期待される  
「二つとない、をつくる。不二製油」を目指します。

## CSR活動方針

### I 「食の創造」に関する取り組み

#### 1. 価値の創造

「企業理念」実現の柱として、油脂と大豆たん白を中心とした新たな食品素材の開発に取り組み、世界のお客様の期待に応えるものづくりを通じて、健康や美味しさなどの新しい価値を提供します。

#### 2. 食の安全・安心・品質

お客様に安心と満足をお届けするために、徹底した安全性の確保と品質の向上に努めます。

#### 3. 持続可能な調達

持続可能な食資源の研究開発を行うとともに、自然環境との調和と安定供給を実現するサプライチェーンも含めた持続可能な原材料調達に努めます。

### II 「人材・人権」に関する取り組み

#### 1. 人権

グローバルに事業を展開する企業として、グループ内にとどまらずサプライチェーンも含めた基本的人権に配慮し、国際的な人権規範を尊重します。

#### 2. 人材

不二製油グループ発展の基盤は人材です。多様な価値観をもった従業員がイキイキと能力を発揮できる効率的で安全な職場環境を整備します。従業員一人ひとりの成長を支援し、企業理念の実現に貢献できる人材を育成します。

### III 「環境」に関する取り組み

環境経営を推進する企業グループとして、原料・水・エネルギーの効率的な利用、地球温暖化防止、廃棄物の削減、生物多様性に配慮した原料調達などに努め、事業活動と環境の調和を図ります。

### IV 「地域・社会」に関する取り組み

不二製油グループは、企業理念の「食」「健康」「豊かさ」に関する社会貢献活動をグローバルに展開していきます。また、良き企業市民として、地域社会とのコミュニケーションを図り、より良い社会作りに貢献します。

### V 「CSR基盤」に関する取り組み

#### 1. 企業理念の浸透とグループCSRマネジメント

グループ全体に「FUJI WAY」の浸透を図るとともに、グローバルな視点でCSRマネジメントを推進できる体制を整備・運用し、更なる改善に努めます。

#### 2. コンプライアンスとリスクマネジメント

透明性の高い健全な経営を実現し、信頼される企業であり続けるためにコンプライアンスを推進するとともに、持続可能な事業活動の推進のため、リスクマネジメントを強化します。

#### 3. ステークホルダーとのコミュニケーション

事業に関わるすべてのステークホルダーと誠実な対話をおこない、その期待に応えることで、信頼関係を構築するとともに、得られた知見をCSR活動に活かします。

#### 4. CSRサプライチェーンマネジメント

取引先との公正で公平な取引を徹底し、取引先との連携を深め、CSR調達を推進します。

## INDEX

### 3 不二製油グループの概要

### 5 不二製油グループの製品マップ

### 7 対談 不二製油グループのCSR

「ものづくり」「ことづくり」「人づくり」で新しい価値を創造します。



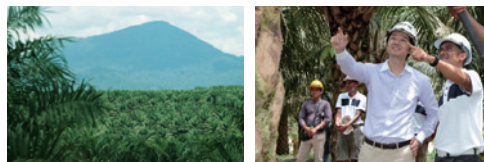
### 11 特集 ①

## “大豆ルネサンス”への挑戦



### 15 特集 ②

## サステナブル 持続可能な調達を目指して



### 19 海外グループ会社社長のCSRコミットメント

### 21 不二製油グループのCSR

### 23 不二製油のCSR課題と取り組み

### 27 「食の創造」に関する取り組み

価値の創造に向けた取り組み／食の安全・安心・品質の確保に向けた取り組み／持続可能な調達の実践に向けた取り組み

### 32 「人材・人権」に関する取り組み

### 35 「環境」に関する取り組み

### 39 「地域・社会」に関する取り組み

### 41 「CSR基盤」に関する取り組み

コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス／リスクマネジメント／株主・投資家とのコミュニケーション

### 44 第三者意見



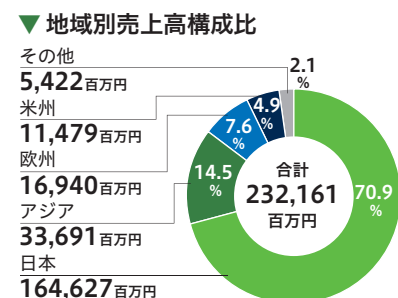
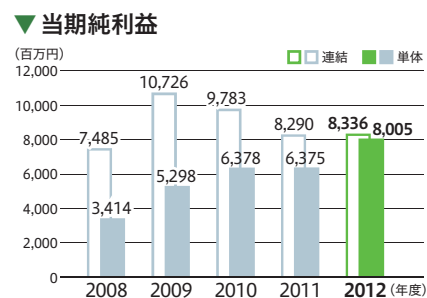
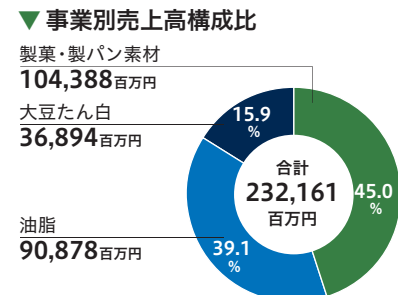
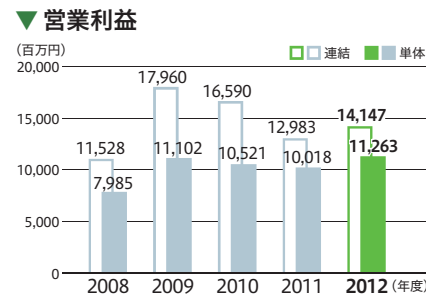
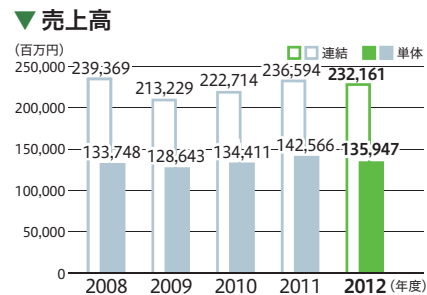
# 不二製油グループの概要

植物性の原料を主原料に、自然の良さを活かしながら、健康とおいしさを実現するための食品素材を開発、生産、販売している不二製油グループ。「油脂加工食品」「大豆たん白加工食品」の二大事業を軸に、ニッチ・スペシャル・グローバルに事業を展開し、多様化する市場ニーズにお応えしています。

## 会社概要

商 号	不二製油株式会社	代 表 者	代表取締役会長 海老原 善隆 代表取締役社長 清水 洋史
本 社 所 在 地	大阪府泉佐野市住吉町1番地	従 業 員 数	単体 1,162名 連結 4,034名 (2013年3月末現在)
設 立	1950年(昭和25年)10月9日	子会社・関連会社	連結子会社 27社 持分法適用関連会社 4社 (2013年3月末現在)
資 本 金	13,208百万円 (2013年3月末現在)		

## 主な経営指標



## 事業概要

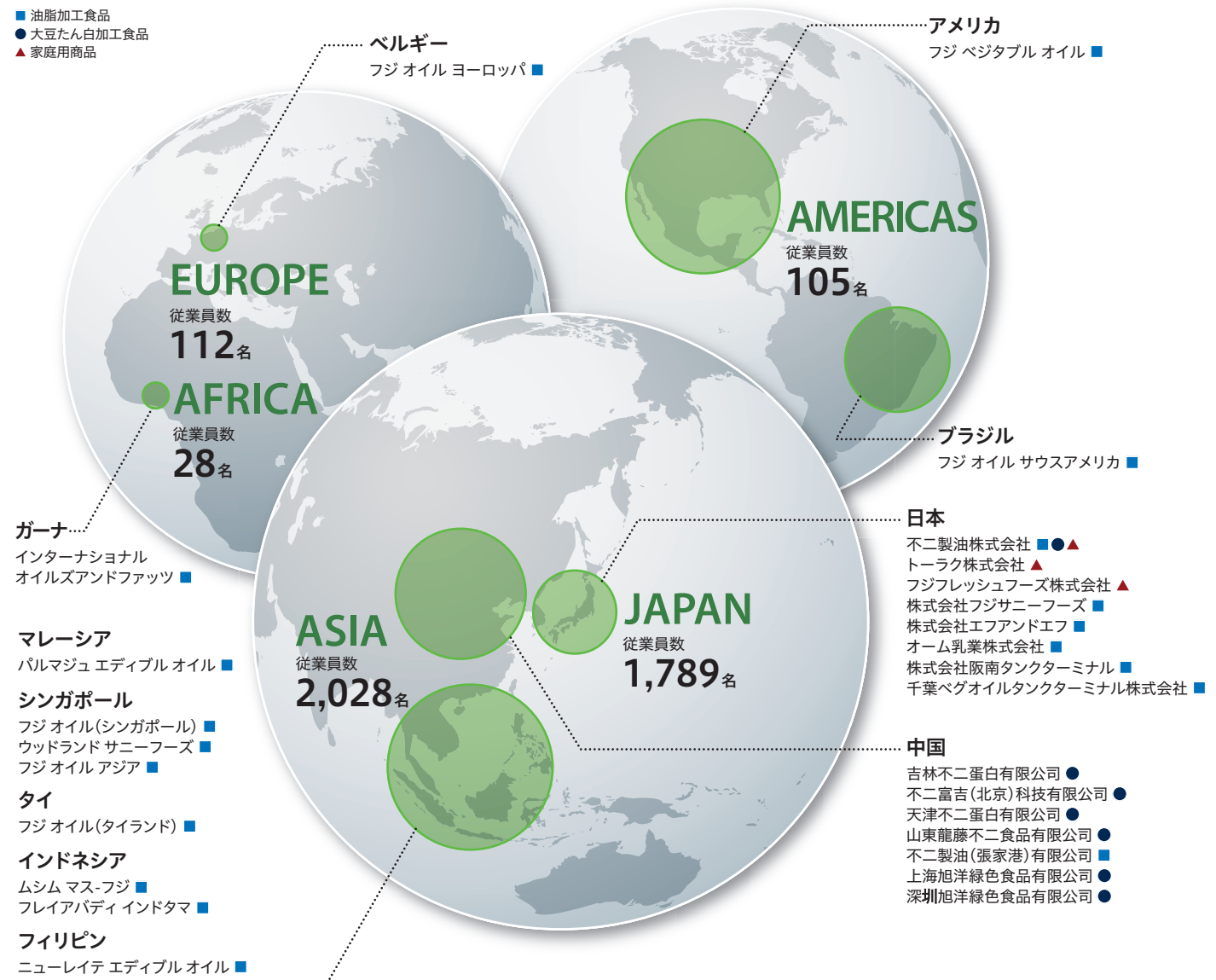


### 油脂事業

チョコレートの機能を向上させるチョコレート用油脂や、安定性に優れたフライ用油脂、風味・食感を改良する乳化油脂など、スペシャルティファットを中心に、多彩な油脂製品を展開しています。



## 不二製油 主なグループ会社



### 製菓・製パン素材事業

おいしさ・使いやすさを追求し、プロのニーズに応える多彩なチョコレート、独自の乳化・発酵技術を駆使したマーガリン、優れた特長をもつ各種クリーム、本格的な風味を生み出すデザート素材など、製菓・製パンに欠かせないさまざまな製品を提供しています。



### 大豆たん白事業

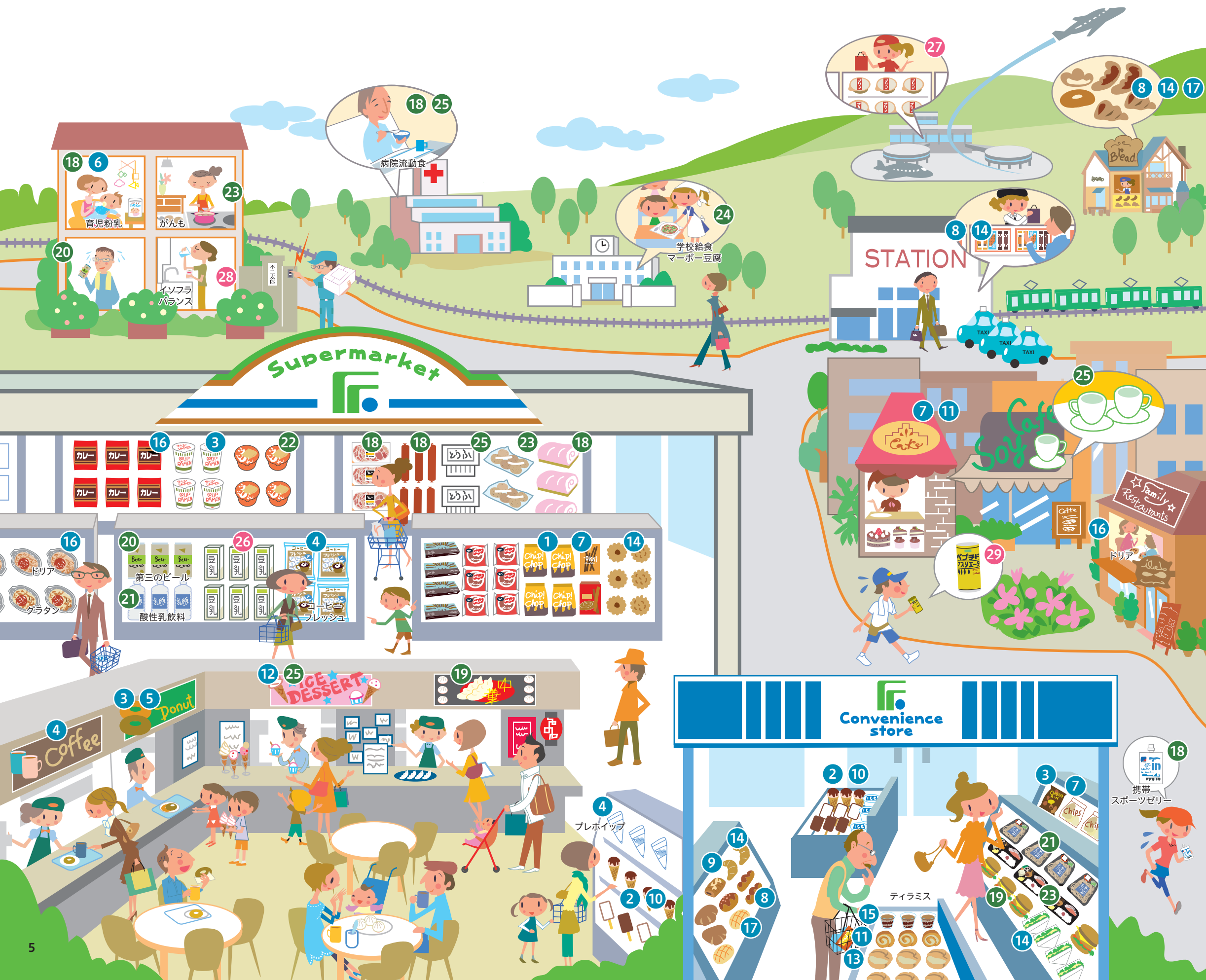
高純度の分離大豆たん白や大豆ペプチド、水溶性大豆多糖類など高機能素材を生み出しています。また、栄養や健康に貢献する幅広い大豆たん白食品を展開しています。豆乳や豆乳ヨーグルトなどの家庭用商品も提供しています。



# 不二製油グループ製品マップ

—もとをたどれば、不二製油—

不二製油グループの食品素材・製品は食生活のさまざまなシーンで利用いただいています。



## 油脂

- ① チョコレート用油脂  
カカオバターを超えた機能をもつ
- ② 冷菓用油脂  
アイスクリームのおいしさをつくる
- ③ フライ・スプレー用油脂  
即席麺、あげ菓子のフライ、調理用で使用
- ④ クリーム用油脂  
ホイップクリーム、コーヒークリームなどに使用
- ⑤ 潤滑・離型油  
食品機械の潤滑や食品の離型機能をもつ
- ⑥ その他油脂  
育児粉乳用に栄養と安定した品質を追求した

## チョコレート

- ⑦ チョコレート  
世界各地の厳選されたカカオ豆を使用したチョコレート
- ⑧ 洋生チョコレート  
洋菓子やパンにかけ、簡単にツヤを出すチョコレート
- ⑨ 成型チョコレート  
生地と一緒に焼いても型が残るチョコレート
- ⑩ アイスクリーム用コーティングチョコレート  
アイス用のコーティングチョコレート

## 乳化・発酵食品

- ⑪ ホイップクリーム  
豊かな乳風味とスッパリした後味を生み出すクリーム
- ⑫ ソフトミックス  
まろやかな口当たりのソフトクリーム用液状ミックス
- ⑬ カスタードクリーム  
乳味と卵風味が豊かなクリーム
- ⑭ マーガリン・ショートニング  
焼き菓子のサクサクとした食感を引き出す
- ⑮ 発酵風味素材  
乳化発酵技術を駆使してつくったデザート用素材

## 食品素材

- ⑯ ベシメルソース  
乳製品を高配合したホワイトソース
- ⑰ 冷凍生地  
パイ生地、クッキーシートとして使用

## 大豆たん白素材

- ⑱ 粉末状大豆たん白  
ゲル化力、保水力をもち、食感を改良する特性をもつ
- ⑲ 粒状大豆たん白  
ジューシーで肉粒感に富み、保水性に優れた機能をもつ

## 大豆たん白機能剤

- ⑳ 大豆ペプチド  
必須アミノ酸を豊富に含み、吸収性に富む素材
- ㉑ 水溶性大豆多糖類  
酸性乳飲料の安定剤や麺・米飯の結着防止剤に使用

## 大豆たん白食品

- ㉒ 味つけ乾燥あげ  
即席麺のあげ等を使用
- ㉓ がんも  
湯通しの手間もいらず、煮くずれしない
- ㉔ 冷凍豆腐  
冷凍保存がきき、必要な分だけ利用できる

## 豆乳

- ㉕ 業務用豆乳  
大豆の青臭みを取り除いた豆乳

- ㉖ 豆乳  
特保調製豆乳・豆乳飲料
- ㉗ プリン  
神戸プリン
- ㉘ サプリメント  
通販イソフラバランス
- ㉙ スポーツドリンク  
通販ペプチダスリエータ

油脂加工食品

大豆たん白加工食品

家庭用商品



# 「ものづくり」「ことづくり」「人づくり」で新しい価値を創造します。

2013年5月30日、本社において大和総研調査本部主席研究員・河口真理子様と当社社長・清水洋史が対談し「不二製油グループのCSR」をテーマに活発な意見交換を行いました。ここでは、その要点を抜粋して紹介します。

## 価値創出のための「ものづくり」「ことづくり」

**河口** 清水社長は4月に社長に就任なさったばかりだと伺っています。就任にあたって、「ものづくり」「ことづくり」「人づくり」経営を掲げられましたが、それはどのような経営なのでしょう。

**清水** 日本は、みんなが一つの方向を目指し、“同質性”を保ちながら頑張ることで豊かになった国です。“同質性”を重視する日本社会のあり方は、高度経済成長期に典型的に示されています。

不二製油は2013年10月に創業63周年を迎えます。製油業界の中では、戦後に創業した企業がこの規模にまで成長したことは珍しいのですが、その推進力となったのは、多くの日本メーカー同様、「ものづくり」の力でした。創業以来、油脂と大豆たん白の

食品素材をもとに絶えず新たな食品の開発に取り組み、「もの」を生み出す力、技術に特化したビジネスモデルによって国内外で競争優位を確保してきたことが、今日の不二製油をつくりました。これは諸先輩による技術革新や独自製品創出の賜物であり、当社の競争優位性は、今もなお「ものづくり」にあります。

しかし、経営環境は急速に変化しています。日本経済が縮小傾向にある今、当社もグローバル展開を一層強化していく必要があり、世界中で多様化している生活環境に対して、新しい価値を創出していかなければなりません。また、新しい価値を創出するには、その背景、すなわち物語性を重視すべきです。どのような状況の、どこに誰に、どのような価値を提供するのか——を常に意識し、明らかにすること。私は、これを「ことづくり」と呼んで

清水  
Hiroshi Shimizu  
洋史

不二製油株式会社  
代表取締役社長

1977年に不二製油株式会社に入社後、新素材事業部長兼新素材販売部長、食品機能剤事業部長、不二製油(張家港)有限公司董事長、専務取締役・蛋白加工食品カンパニー長などを経て2013年4月に現職に就任。

いるのですが、従来の「ものづくり」に「ことづくり」を加えることで、社会から認められる価値を生み出せるのだと考えています。

ものづくり + ことづくり = 価値づくり

人づくり

**河口** 「ものづくり」の背景にある「こと」、それが物語なのですね。「消費」について考えますと、消費という概念には百数十年の歴史しかありません。自給自足から物々交換を経て、今のよう

**清水** 自給自足の時代には、自分とその家族のことだけ考えていればよかったのが、物々交換の時代になると、ほかの人に「交換したい」と思ってもらえる価値をつくるために相手のことを考えねばなりません。今の時代は、自由に商品を選べる消費社会ですので、なおさら相手のことを考えねばなりません。

「ことづくり」は、相手にすばらしいと思ってもらえる価値の創出に不可欠です。相手が何を望んでいるのかを考え、それを「もの」として表現してこそ取引が成立します。「ことづくり」にダイバーシティが重要な役割を果たします。日本で「ダイバーシティ」と言うとき性差に目が向けられがちですが、「ことづくり」の

ためには個人や集団間にある“多様性”、本来の意味におけるダイバーシティを尊重する必要があります。

## 多様性の尊重が「人づくり」の鍵

**河口** 「ことづくり」や、これからの「ものづくり」のために、今後、どのような「人づくり」をしていかれるのですか。

**清水** 相手のこと、相手がして欲しいことを想像する力に富んだ人を育てていきます。想像力は「人間力」であり、社員にはあなたの方の人間力を向上させてくださいと言っています。また、これからの企業にとって「革新」が生き残りの条件であり、変革を進める上で多様な意見を受け入れることが大切です。男性とは違う立場からの意見を期待するという意味からも、女性の活躍推進に力を入れていきます。

**河口** 「人間力」とは、相手に共感する力のことも言えますね。想像力や共感力を養うには今の教育は十分でないで、「人間力」を鍛えるには難しい時代と言えるかもしれません。教えられた通りに覚えれば、正解にたどり着けるのですから。

**清水** 私が危惧しているのは、組織の拡大とともに自分の頭で考えない社員が増えていくのではないかと、ということです。コンプライアンスやリスクマネジメントなど、社会の要請に従って制度や

河口  
Mariko Kawaguchi  
真理子

株式会社大和総研 調査本部  
主席研究員

一橋大学経済研究科修士課程(環境経済)修了、大和証券入社。その後、大和総研に転籍し、企業調査、経営戦略研究部長/主席研究員などを経て、大和証券グループ本社広報部CSR担当部長就任。現在の専門分野は、環境経営・CSR・社会的責任投資、NPO法人・社会的責任投資フォーラム代表理事・事務局長を務める。



規程を整備していくと「それらを守ってさえいればいいんだ」と誤解し、想像力を低下させてしまう人が出てくるのではないかと。

だから私は、社員に常日頃から「なぜだろう?」と考えて欲しいと言っています。机に向かってだけでなく、外の人々との接点で「なぜだろう?」と考えることが人を成長させるからです。

**河口** 朝から晩まで同じ建物の中で実験や執務に集中し、帰宅して翌朝出勤。そのように同じ環境で同じことを繰り返していたのでは、外の世界の多様性を知ることは難しいですからね。

**清水** 例えば、学生時代の研究室の仲間と会って話すことは、さまざまな業界の動きを広く知る手立てになります。多様な人々と接することで、我々の技術が世の中のどのようなポジションにあるのかが見えてきたりするのです。

**河口** 経済のグローバル化もまた、多様な価値観への受容力を求めていますね。

私はよく「スジコ」と「イクラ」に例えるのですが、日本人はたくさん粒がつながったままの「スジコ」状態、そんな状態にとどまっていると感じます。国や組織に集団で依存しているのです。一方、外国には自分の考え方をしっかり持っている人が多いようです。日本企業も、社員を「スジコ」から、個として確立された「イクラ」にしていくことを考えなければなりません。

**清水** その通りですね。グローバル社会では、一人ひとりが自立した人間になる必要があります。そうなるには、早い時期に海外で仕事をして、異文化と接することが有効です。私は中国法人に駐在した経験がありますが、海外法人は国内とは違って規模が小さいところが多く、自分一人で判断して実行せざるをえない状況に置かれることによって成長できるのです。



## 社会に生かされているという自覚が大切

**清水** 自分だけの判断基準、価値基準には、独りよがりになる危険性もありますから、常に社会的な価値基準に照らして考えるべきです。会社は社会から必要とされているから存在でき、そんな会社の中で自分が生かされているのですから。

**河口** 社会に生かされているから、そのお礼として社会に還元したい、会社としても利益を上げたいと思うべきだということですね。高度経済成長期の企業、企業人の価値観は、利益の積み上げに偏重してきました。しかし、それでは長続きしません。社会に利益を還元する企業でなければならないのです。

**清水** 当社はお客様や社会にどのような価値を提供すべきなのか、どんな存在であるべきなのかを考えて、我々は仕事をせねばなりません。その結果として、会社は利益を上げることができ、社会にも貢献でき、社会と会社の両方が長続きする。それが「サステナブル」ということですね。

## 持続可能な調達、そして国連GCへの署名

**河口** 最近は消費者も変化していて、サプライチェーン上流への関心を高めています。御社のようにBtoBで素材を提供している企業も、消費者から注目される時代が来ているように思います。

**清水** 私は社員に「我々はBtoBforCでなければならない」と言っています。それは、顧客企業の先にいる消費者のために製品の質を高めるといふことにとどまりません。消費者が抱えているサプライチェーン上流への関心に応えることも重要です。当社グループは、2004年にRSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)に加盟するなど、パーム産地の環境や労働、人権などに配慮した事業展開を心がけています。また2012年にはWCF(世界カカオ財団)に加盟したほか、トレーサブルカカオの購入も開始するなど、間接的ではありますが原料産地での社会貢献活動にも関わっています。

## 事業を通して、社会に新しい価値を提供すること。それが当社の使命です。

不二製油株式会社 代表取締役社長 **清水 洋史**

## 社会的課題に取り組み 社会との良好な関係を保つ ——それがCSRのあるべき姿。

株式会社大和総研 調査本部 主席研究員 **河口 真理子**様



このように、環境や労働、人権などの面でも信頼できる農園で育てられた、安全・安心で持続可能な原料を調達することは、私たち食品素材メーカーが果たすべき責任であると考えています。

**河口** 環境、労働、人権と言えば、御社は最近、国連グローバル・コンパクト(GC)に署名なさったとか。

**清水** はい。2013年1月に署名しました。当社グループが掲げている企業理念、「『食』の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献します」を実現していくには、国連GCの人権、労働、環境、腐敗防止に関する10原則を支持し、顧客企業や消費者にとつての「豊かさ」と、原料産地などサプライチェーンを構成する人々の「豊かさ」を両立させていく必要があると考えたからです。

## 地球を救うという壮大なビジョンを掲げて「大豆ルネサンス」に挑戦

**河口** 海外原料産地への配慮は当然必要ですが、私は国産大豆のことも気になります。社会貢献の一環として、国産大豆を育てている農家の支援を検討してみたいはいかがでしょうか。

**清水** なるほど。国産大豆は輸入大豆とのコスト競争に勝てない——そこに難しさがあるのですが、国産大豆の農家と当社、お互いの価値を創造できる活動を考えて、実行したいですね。

**河口** ぜひ検討してみてください。そもそも、CSRのあるべき姿というのは、企業活動の一部ではなく、企業が社会との関係を良好に保つ活動、つまり「企業経営そのもの」です。高度経済成長期は企業も社会も同じ方向を向いていましたが、時代が変わり、さまざまな社会課題が浮かび上がってきている今、社会とのつながり方やコミュニケーションの仕方を変える必要も出てきています。自社に関係する社会課題に優先順位をつけて取り組み、社会との良好な関係を維持していくことが企業経営上、極めて重要になってきています。

**清水** そうですね、当社もCSRを「企業経営そのもの」と位置づけています。例えば大豆たん白事業は、今ふうに言えば「社会のサステナビリティを実現する事業が、当社のサステナビリティを

も高める」という考え方で始めたものです。名誉会長であった西村政太郎は「50年後の地球を考えよ。孫の世代になって世界的な人口増で食糧が不足してくれば、大豆事業の有望性がわかる」と言いました。まさに今、そのような時代になって、もう一度大豆の原点に戻り、新しい価値を創造していこうと、2012年10月に「大豆ルネサンス」を発表したのです。

**河口** 大豆たん白は、食糧危機の解決に役立つ事業だと思います。御社が開発した「お肉の食感がする大豆たん白」が食肉代替品として普及すると、いろいろな問題が解決されそうですね。

**清水** 私たちは「大豆は地球を救う」という、壮大なビジョンを掲げています。ただし大豆は、そのままの形では、そうたくさんは食べることはできません。そこで当社は、これまでにない製法で、これまでにないおいしい大豆食品を開発しはじめています。これらの新製品は、和食の著名な料理人からも高い評価をいただいています。そして将来、世界中の食文化の中に大豆が定着するような「ものづくり」「ことづくり」を成功させたいと考えています。

事業を通して社会に新たな価値を提供すること。これこそが当社の最大の社会的使命です。そして、「ものづくり」「ことづくり」を成功させる「人づくり」にも力を入れていきます。

**河口** 社会に新しい価値を提供していくための、御社の「ものづくり」「ことづくり」「人づくり」に期待しています。

**清水** 本日は、ありがとうございました。

(2013年5月30日)



# “大豆ルネサンス”への挑戦

近年、地球上では気候変動や人口増加による水・食糧不足が問題となっており、また、「食」に起因する生活習慣病やアレルギー疾患が、先進国だけでなく新興国においても社会問題となっています。不二製油グループは、健康と環境に良い大豆を、さらに広く、多くの人々においしい食品素材・加工食品として提供していきたいという思いをこめた中長期ビジョン“大豆ルネサンス”を発表しました。



加工食品や調味料など、大豆の用途は多岐にわたります。



## 大豆本来のおいしさを引き出し、新しい価値を創造する

### 半世紀にわたって大豆たん白事業を展開

不二製油が日本で初めて分離大豆たん白の製品化に成功したのは1967年。その根底にあったのは、大豆を単なる油糧資源ではなく人間の生命維持に不可欠な食糧資源・たん白資源とみなし、その大いなる可能性を引き出していきたいという強い思いでした。

大豆は、植物としては高い約35%ものたん白質を含み(無水換算)、昔から「畑の肉」と呼ばれてきました。大豆から加工された大豆たん白は、必須アミノ酸をバランスよく含み、コレステロールを低下

させる機能を持っています。当社では、大豆たん白を原料に、アミノ酸を吸収しやすく加工した大豆ペプチドや、血中中性脂肪を低下させる機能を有する大豆β-コングリシニンを加工し、副産物からは女性のホルモンバランス改善に役立つ大豆イソフラボンを抽出しています。

当社は従来より、このような「人を健康にする力」に着目して、「大豆たん白」や「豆乳」といった食材、機能剤「大豆ペプチド」や「大豆イソフラボン」などを次々と開発し、広く世の中の皆様に提供

### ▼これまでの大豆たん白事業の製品

**大豆たん白素材**  
粉末状大豆たん白、粒状大豆たん白、豆乳類、大豆ペプチド、水溶性大豆多糖類、イソフラボン素材、サポニン素材



**大豆たん白食品**  
がんも類、豆腐・厚揚げ類、豆腐ハンバーグ類、湯葉、きんちゃく・しのだ類、ファイタスシリーズ

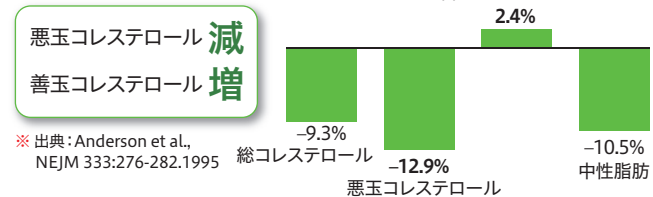


**家庭用商品**  
大豆たん白食品、デザート類、豆乳類、健康食品(特定保健用食品含む)、サプリメント

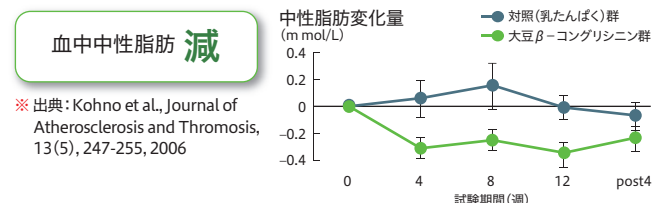


### ▼大豆たん白の健康機能

#### ●高コレステロールに対する改善作用



#### ●血中中性脂肪に対する改善作用



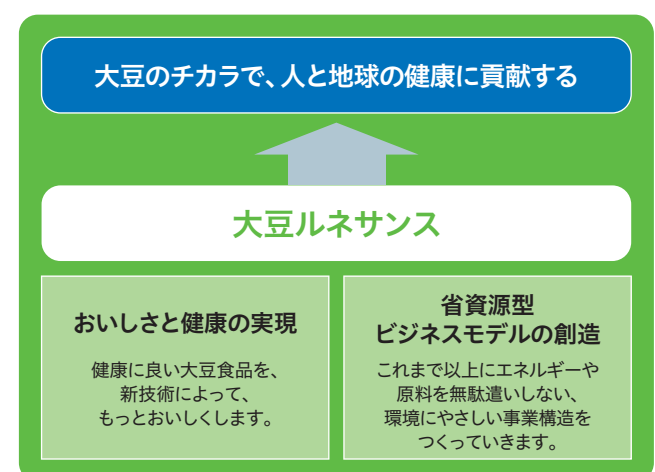
してきました。また、一貫して非遺伝子組換え大豆を原料にするなど、安全・安心を求める消費者ニーズにも応えてきました。

## 大豆の原点に戻り、新しい価値を創造する“大豆ルネサンス”

今、地球上では温暖化やそれに起因する異常気象、また砂漠化、農耕地の減少などが進んでいます。2050年には世界の人口は91億人を超えと言われており、今後、食糧や水不足の問題が深刻になると予想されています。さらに、生活習慣病やアレルギー疾患など食生活に関連する疾病への対策が、先進国だけでなく新興国でも求められています。

このような環境変化の中で、当社は2012年、大豆事業の中長期事業戦略“大豆ルネサンス”を発表。大豆の原点に戻り、大豆の可能性をさらに引き出し、新しい価値を創造することで「人」と「地球」の健康に貢献していくことを宣言しました。

### ▼中長期的事業戦略「大豆ルネサンス」



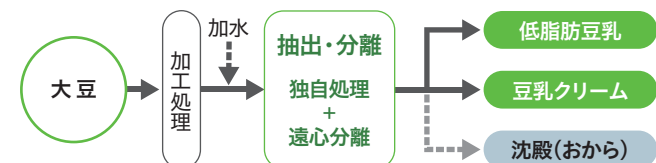
### 大豆本来のおいしさを引き出す世界初の「USS製法」を開発

当社は、大豆がもつ「人を健康にする力」をこれまで以上に多くの人々に役立てていくために、大豆本来のおいしさを引き出したいと考え、2012年に「USS(Ultra Soy Separation)製法」を開発。生乳の分離に近い方法で大豆から、そのおいしさをそのまま損なうこと

なく「低脂肪豆乳」と「豆乳クリーム」の二つの素材をつくり出すことに世界で初めて成功しました。

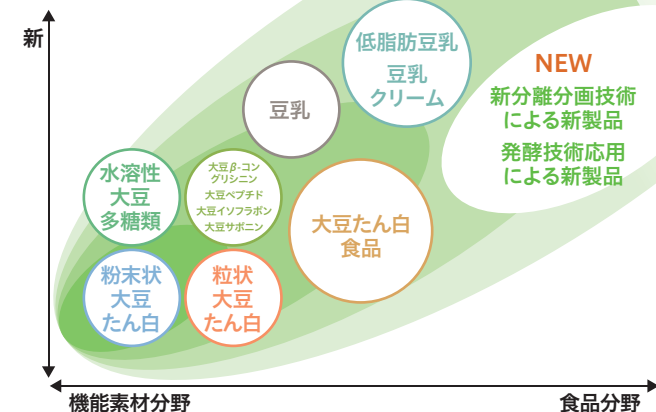
「低脂肪豆乳」はこれまでの豆乳よりも低カロリーで、豆乳を苦手とする方々、高コレステロールや乳製品アレルギーで牛乳を口にできない方々にも、おいしく飲んでいただけます。このほか、「低脂肪豆乳」にはダシと同様の働きがあり、素材と合わせると旨味を広げる特徴をもち、「豆乳クリーム」には牛乳を原料とするクリームのようなコクと旨味を持っているため、広く加工食品や料理へ応用できると期待されています。

### ▼「豆乳クリーム」と「低脂肪豆乳」をつくるUSS製法



豆乳クリーム(左)と低脂肪豆乳(右)

### ▼大豆製品の展開





## 特集 ① “大豆ルネサンス”への挑戦



### 「大豆ルネサンス発表会」を開催

当社は、USS製法による新製品を広く世の中に知っていただくことを目的に、「大豆ルネサンス発表会」をこれまでに2度開催しました。その中で、お客様からさまざまな用途をご紹介いただき、新製品について講評いただきました。「コクや甘み、濃厚感がプラスされ豆のおいしさが引き立つ」「日本料理にリッチ感が加わる」「ほかの素材を引き立てる」「おいしさと健康を併せ持った新しい豆乳」などの高評価をいただいています。

今後はさらに、お客様と共に日本の食文化を世界に広めていきます。



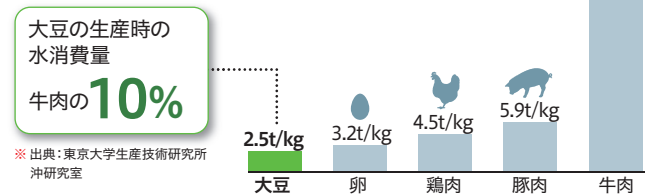
2012年10月「大豆ルネサンス発表会」の様子。当日はメニュー提案や試食も行われた。

### 地球も健康に——食のグリーンレボリューション

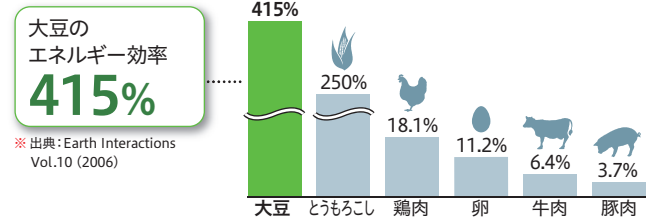
大豆は、北緯50度の寒冷地から赤道に近い熱帯まで広い地域で栽培でき、わずかな肥料で多くの量を収穫することができます。また、資源の利用効率が高く、同じたん白源である牛肉などと比べ、同量の水やエネルギーではるかに多くの収穫が得られます。近年、新興国の経済発展によって、世界の食肉消費量、特に豚肉・鶏肉が増加しつつあり、飼料穀物や農業用水の不足が危惧されていますが、大豆食品の普及は、こうした問題の解決にも役立つと当社は考えています。

#### ▼大豆の資源利用効率

##### ●水資源利用効率の高さ



##### ●エネルギー効率の高さ



### 子供から高齢者まで、さらに食べやすく——大豆たん白調理素材「まめプラス」

2012年、当社は大豆たん白調理素材「まめプラス」シリーズを発売しました。高たん白・低脂肪のヘルシーな食品素材を従来以上に使いやすく食べやすい形態にすることでメニューが広がり、小学校の学校給食にご採用いただいています。また、2013年3月発売の「ベジプラス2900」は、独自の技術によりスライス肉の食感をもつ



まめプラスを用いたミートソース風スパゲティ



まめプラス

### VOICE 大豆ルネサンス発表会に参加されたパートナーから



コールド・ストーン・クリーマリー・ジャパン株式会社  
マーケティングディレクター

米津 一郎 様

#### 豆乳クリームで、「おいしい豆乳アイス」が初めて実現しました。

店舗でアイスクリームを提供する当社では、「ご来店のお客様に少しでも幸せになっていただく」ことを商品づくりやおもてなしの基本としています。これには、商品の「おいしさ」だけでなく「健康感」も大事な要素。豆乳には以前から注目していましたが、独特な風味でほかの素材と合わせづらかったことや、おいしい豆乳素材が少ないこともあり導入に踏み切れないでいました。しかし、不二製油様の豆乳クリームでこれらの課題が解決し、さっそく、6月に健康感の強いフルーツ(アサイー)を盛り込んだ新メニューを発表しました。

画期的な素材である豆乳クリームですが、今後は限られたコストの中で、さらにおいしさと機能性を高め、栄養面での優秀さも、もっとアピールしていったほうがでしょうか。

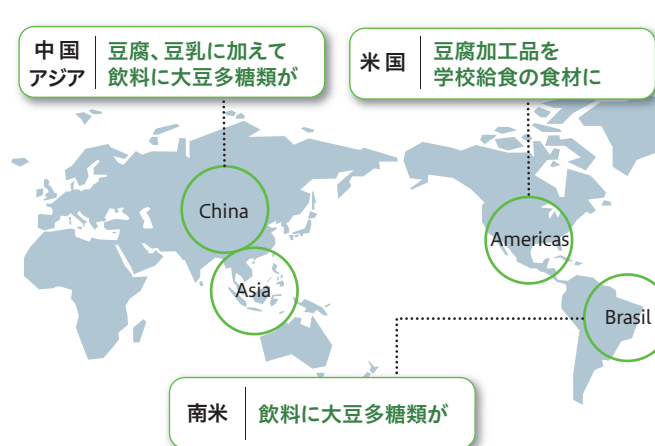
た大豆たん白を実現しました。

大豆には、成長期の子供にとってアミノ酸のバランスが良く、また生活習慣病の原因となる動物性脂肪を含まないといった利点があります。当社は今後も、子供から高齢者まで幅広い層に向けて健康に配慮した食品を提供していきます。

### “大豆ルネサンス”を世界へ

米国では、2012年に学校給食の新基準がつけられ、豆腐加工品が導入されるなど、健康増進に役立つ食材として大豆が社会的に認

#### ▼世界各地で高まる大豆へのニーズ



#### VOICE 担当役員から

### 世界の人々に大豆を通して貢献していきます。

今、世の中は健康志向の高まりから、大豆の良さが見直されています。

不二製油グループでは、「大豆の原点に戻り、新しい価値を創造し、人と地球の健康に大きく貢献する」大豆ルネサンスを2012年に発表しました。世界中の人からおいしいと言っていただける大豆食品を提供したいと考えています。

その大豆本来のおいしさを追求したものがUSS製法の新素材で、大豆から低脂肪豆乳と豆乳クリームの分離抽出を世界で初めて可能にした製法です。分けることで大豆のおいしさを最大限引き出すことに成功しました。この素材については和食を世界文化遺産にしようと積極的に活動されている京都「菊乃井」の村田社長からも、「和食の素材の味を殺さずコクを与える、和食の世界化に最適な素材だ」との高い評価を得ています。日本で、さらに世界で、食のおいしさに貢献できる大豆ルネサンスの理念を具現化できる素材だと言えます。

今後は、従来の大豆たん白事業を推進するとともに、より多くの世界の人々に大豆を通して貢献できるよう取り組んでまいります。



取締役執行役員  
経営企画本部副本部長 兼  
新規事業推進部長

小林 誠



# 持続可能な調達を目指して

不二製油グループは、企業理念「『食』の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献します」を実現することが自らの重要な社会的責任であると考えています。「健康で豊かな生活」とは、顧客・消費者に限らず、原料の調達先とその上流にいる原料産地の人々の生活もまた健康で豊かであることを願って、持続可能な消費と調達を共に実現していくことを目指しています。



パーム農園の視察



KLKサバ社の方々(左3名)と当社視察チーム(右2名)



## より良いビジネスパートナーとCSR調達を推進するために

### 「CSR調達ガイドライン」に基づく調査を開始

不二製油グループは持続可能な社会の実現を目指して、地球環境や労働、人権などに配慮した調達を行っています。

2012年に「CSR調達ガイドライン」を制定。コンプライアンス、環境、人権・労働安全衛生などの8項目を重視し、お取引先と連携し、サプライチェーン全体でこれらを実現していくことを明らかにしました。また、8項目に関するお取引先の取り組み状況を把握するために「調達ガイドラインアンケート」調査を実施。国内外396社から合計31の質問へのご回答をいただきました。その結果、各社の取り組みは概ね良好ではあるものの、「有事の際の自社拠点におけるBCP(事業継続計画)策定」「天災など災害時の供給体制整備」「CSR調達方針などの策定」が完了してないお取引先が少なくないことがわかりました。

2013年度は、調査結果を踏まえてお取引先との対話を深めるとともに、海外グループ会社においても自己のお取引先に対してアンケート調査を実施していきます。

### マレーシアKLK社のパーム農園を視察

#### 生産者の顔が見える調達を目指して

当社は「生産者の顔が見える調達」を目指して、原料産地などの視察を実施しています。

2013年6月、マレーシアのクアラランブールケパン(KLK)社が保有するボルネオ島サバ州のパーム農園・搾油工場(KLKサバ社)と製油工場(KLKプレミアオイル社)を訪問しました。KLK社は約25万ヘクタールのパーム農園を保有する大手パーム油メーカーで、マレーシアとインドネシアでパーム農園を運営し、搾油から精製

までを一貫して手掛けています。当社は日本最大のパーム油取り扱いメーカーとして複数のお取引先から調達していますが、KLK社はその中の重要な一社です。

### 持続可能なパーム油を実現するためにRSPOの原則・基準を尊重

パーム油は、フライ油やマーガリン、ショートニングなどの原料として世界で一番多く消費されている植物油で、人々の生活に欠かせません。しかし、その原料であるパームの農園については児童労働や環境破壊などの問題も指摘されています。

このような問題を解決するために、不二製油グループは、RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)が創設された2004年に会員として加盟。地球環境、労働、人権などに関する8原則39基準を尊重してRSPOのサプライチェーン認証(SCC)取得を進め、現在ではベルギー、米国、マレーシア、シンガポール、中国、日本(阪南工場)が取得しています。

一方、今回視察したKLK社はRSPOの創立メンバーであり、現在、ボルネオ島サバ州での農場運営を含む全活動についてRSPOの原則と基準に関する認証取得を完了、全世界のRSPO認証(SCC)パーム油生産能力の約5%をもつに至っています。

サバ州でパーム農園と搾油工場を運営しているKLKサバ社のリージョナル・ディレクター、ユー・テム・ポー氏は、持続可能な取り組みについて「私たちはRSPOの8原則を最大限尊重し、環境問題や地域住民への配慮、労働環境の整備などに努めています。また今後は、農園開発が進むインドネシアでも責任ある活動をしてい

くために、2015年までにISPO(インドネシア持続可能なパーム油: Indonesian Sustainable Palm Oil)規則の認証を取得する予定です」と語ります。

RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)  
RSPOは“Roundtable on Sustainable Palm Oil”の略称。パーム油生産業、搾油・貿易業、消費者製品製造業、小売業、銀行・投資会社、環境NGO、社会・開発系NGOの協力のもとで運営されている非営利組織。

RSPO  
Roundtable on Sustainable Palm Oil

#### RSPOの8原則

1. 透明性へのコミットメント
2. 適用法令と規則の遵守
3. 長期的な経済・財政面における実行可能性へのコミットメント
4. 生産及び搾油・加工時における最善の手法の採用
5. 環境に対する責任と資源及び生物多様性の保全
6. 農園、工場従業員、影響下にある地域住民への責任ある配慮
7. 新規プランテーションにおける責任ある開発
8. 主要活動分野における継続的改善へのコミットメント

#### RSPOのサプライチェーン認証(SCC)

SCCは“Supply Chain Certificate”の略語。持続可能な栽培の基準を満たした農園産のパーム椰子を原料とする製品を生産・販売し、消費者まで届けるサプライチェーンシステムが構築されていることを認めるもの。



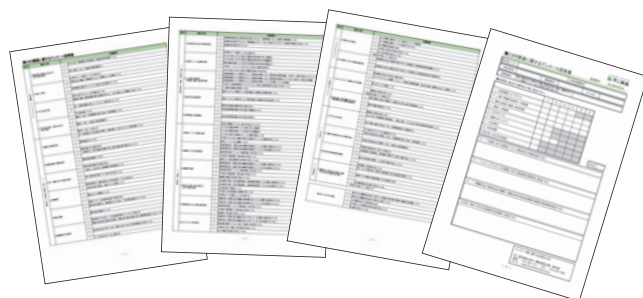
### 教育、環境・社会問題の解決にも独自に取り組む

#### 外国人ワーカーの子供たちのために学校を運営

KLK社はボルネオ島サバ州の山間部に合計約4万ヘクタールのパーム農園を運営しており、農園では約4,500人のワーカーが収穫



#### ▼ 調達ガイドラインアンケート



#### ▼ パーム油とは

厳密に言うと「パーム油」には2種類があり、パームの果実の中の果肉の部分からは「パーム油」が、核の部分からは「パーム核油」が得られます。



#### ▼ 当社のパーム油関連製品







や除草などの作業に携わっています。その多くがインドネシアから就労ビザを取得して来た人々で、中には家族連れもいます。

そこでKLK社は、子供たちに教育を提供するために、またワーカーたちの労働環境を整えるために、小学校※、幼稚園、託児所を運営しています。今回、当社の視察チームは、子供たちの状況を知るために、これらの施設を視察しました。

小学校については、NGOであるボルネオ子供支援協会“ヒューマナ”と連携して運営しており、ヒューマナに所属するインドネシア人を中心とする教師陣が子供たちを教えています。

ヒューマナのプロジェク・ディレクター、トーベン・ベニング氏は、次のように語ってくれました。「子供たちには、背景・国籍・地位に関係なく、みんなが等しく教育を受ける権利があります。そして私たちは、サバ州にいる、公立小学校に通えないすべての子供たちに良い基礎教育を与えるというビジョンをもっています。KLK社は大変すばらしい会社で、現在、KLK社は5つの小学校に約1,400人の子供たちを受け入れておりワーカーの子供たちのすべてが就学しています。しかし、KLK社のように大規模ではない小規模経営の

農園には、この種の学校がないので、子供たちにどう就学機会を与えるのが課題の一つです。今後、不二製油と一緒に子供たちの教育について考えていければ嬉しいですね」。

※ マレーシア教育省の認可を受けたラーニング・センター

### 生物多様性保全のために河畔などの植生を回復

KLK社は、さまざまな環境保全活動に取り組んでいます。

農園周辺の森林保全、森林再生のための植樹、焼畑農法ゼロのルール化と実行、害虫・害獣対策にパーム木屑やフクロウなどを利用することによる農業使用の抑制、パーム油工場の廃棄物などの堆肥化や植生による土地改良、パーム殻などから発生させたバイオガス燃料による発電など、多様な取り組みを進めています。

中でも今回は、生物多様性の状況を知るため、農園と河川の間河畔部を視察しました。マレーシアでは以前、河岸近くまでパームが植栽されていましたが、近年は農園から河川への農業・肥料や表土の流出防止と野生生物のコリドー（回廊）確保のために、植生回復が義務づけられるようになっています。

視察の結果、法定の20m幅の土地にサキシマスオウノキなどの在来種を植えていることがわかりました。また「ここは川幅が狭いので20mだが、川幅が広い場所では20m以上になるように努めている」との説明を受けました。さらに、休耕地の植生回復について「アカシア・マンギウムなどの外来種を植えていないか」を尋ねたと



河畔の植生回復



植林するのは在来種

ころ、「以前はそんなことがあったかもしれないが、最近はフタバガキなどの在来種を植え、生態系保全に努めている」との回答を得ました。

### 労働負荷軽減と生産性向上のために

KLK社は、農園労働の負荷低減と生産性向上に努めています。

従来、パームの収穫作業は、柄の長い鎌を使って腕力で切り取る重労働でしたが、その負荷を軽減させるため、現在、自動式の鎌の導入を進めています。すでに主力農場の30%で導入を終えており、導入前に比べて約16%収穫量が向上したとの結果が出ています。また、ワーカー一人ひとりが1日に何個を収穫したのかを記録して正確に評価するためにバーコード管理システムを導入しており、このことが収穫した場所や日時までを限定できるトレーサビリティの確保に役買っています。

また、農園ワーカーなどのために、医療施設を運営し社宅を無償で提供するなど、福利厚生を充実させることで、人材と労働の質向上を図っています。なお医療施設については、その利用は農園ワーカーに限らず、地域住民にも開放しているとのこと。

### 不二製油にできることを考え、実行します

今回のKLK社視察は、私たちのビジネスパートナーのパーム農園における持続可能な調達に向けた積極的な取り組みへの理解を深めていく貴重な契機となりました。今後、今回の視察結果などをもとに、私たち自身が調達先や原料産地に対してできることを考え、実行していきます。



自動式の鎌による収穫



手動式の鎌による収穫



バーコードによる収穫量管理



農園労働者などのための社宅



農園内に置いている医療施設



1.小学校 2.託児所 3.幼稚園 4.NGO“ヒューマナ”との対話

### VOICE 調達先から



KLKサバ州リージョナル・ディレクター  
ユー・テム・ポー 氏

「サステナブル調達」と「コストダウン・クオリティアップ」を同時に実現していきたい。

近年、私どものようなパーム農園を営んでいる会社には、労働条件や環境保全への配慮が求められるようになっていきます。その一方で、お客様からの品質や価格への要望にも応えていく必要があります。

しかし私どもは、これらを矛盾したニーズであるとは考えていません。「サステナビリティへの配慮」と「コストダウン・クオリティアップ」は、同時に満足させられると考えています。例えば農業について、従来通りの散布回数を踏襲するのではなく、散布しなくても収穫量への悪影響が少ない時期を特定することで、回数を減らすことが可能です。それによって労働負荷と環境負荷が減り、コストも低下し、パーム油の安全性も一層高まります。

当社はRSPO8原則を尊重してパーム農園や工場を運営しており、今後もすべてのステークホルダーに配慮した経営をしています。

### VOICE 担当部長から

サプライチェーン全体でCSRを実践していきます。

不二製油はパーム油の取り扱い量が日本最大であり、社会問題に対する責任を果たすことも調達活動における大切な要素の一つと考えています。社会問題に対応していくためには、お取引先にも社会的責任(CSR)を果たしていただく必要があり、サプライチェーン全体での活動が重要になります。

当社の主原料であるパーム油の主要なお取引先の一つとして、KLK社は共に歩むべきパートナーであると考えています。KLK社のパーム農園では、労働者や自然環境にも十分配慮して、RSPO認証に恥じない持続可能な農園づくりに努めており、我が社の目指すところと一致します。

私たち不二製油グループは今後もCSR調達を推進していきます。良い品質を、適正な価格で、タイムリーに持続的に安定調達することに専心し、社会から信頼・共感を得られる企業を目指してまいります。



原料部 部長  
信達 等



# 海外グループ会社社長のCSRコミットメント

不二製油は、国内グループ7拠点、海外グループ19拠点を有するグローバル企業です。ここでは、主要な海外グループ企業10社について、CSRコミットメントを紹介します。

## 1 企業と社会のサステナビリティを高めるため、水資源の確保に取り組みます。 FUJI OIL EUROPE (ベルギー)

水資源の確保は、企業のみならず社会全体のサステナビリティを高めるためにも重要です。当社の活動拠点であるフランダース地域では地下水を水道水の水源としています。近年、人口増加や農業用水、工業用水の使用量増加によって、地下水量が減少してきています。フランダース政府もこのことを懸念しており、水道水の料金も年々上昇しています。

当社は今年、隣接する企業や水道会社と協力して当社敷地内に水処理施設をつくるプロジェクトに取り組みます。近くを流れる運河の水を浄水処理し、当社が使う工場用水、飲料水のすべてを地下水由来のものから運河由来のものに切り替えることで、地下水を保全し工場用水コストを削減します。



社長  
**Bernard Cleenewerck**

## 2 食の安全・安心と環境を重視し、お客様と共に発展します。 FUJI OIL (THAILAND) (タイ)



社長  
**正 和友**

経済成長著しいタイでは、失業率が1%以下で推移しています。所得も年々増え、よりおいしいものが求められています。消費者の目も厳しくなっており、食の安全・安心への意識はますます高まっています。

当社は操業を開始してから2年足らずですが、他のグループ会社と同様に『「食」の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献する』というグループ共通の理念に基づき、コンプライアンスを重視し、安全・安心な製品、環境にやさしい工場づくりを進め、お客様と一緒に発展していく会社を目指します。

## 3 調達から地域貢献に至るまで、東南アジアでCSR活動を進めていきます。 FUJI OIL ASIA (シンガポール)

当社は東南アジアのグループ会社3社を統括しています。

調達面では、NPOによる小規模パーム農園の経営実態調査に協力するなど、持続可能なパーム油生産に取り組んでいます。

食の安全・安心においては、当社傘下のウッドランドサニーフーズ社がシンガポール当局からSilver Awardを受賞するなど、着実に充実してきています。

また、環境負荷を減らすためにエネルギー消費の効率化にも取り組んでいます。

さらに、シンガポールとマレーシアでは、学生たちの職業実習への協力を継続し、各地の教育に貢献しています。

当社は、成長するアジア地域の統括会社としての役割を認識し、同地域の他のグループ会社と共に、『FUJI WAY』を念頭に、グローバルな観点からCSR活動を進めていきます。



社長  
**吉田 友行**

## 5 経営基盤を堅固なものとし、雇用維持の責任を果たします。 NEW LEYTE EDIBLE OIL MANUFACTURING (フィリピン)



社長  
**橋本 昌弥**

## 4 食の安全・安心、公正な価値の提供を通してお客様の要望にお応えします。 FREYABADI INDOTAMA (インドネシア)

インドネシアでは、経済発展の黎明期にあって、人々はより良い暮らしを求めており、企業には「人々と環境に対する社会的責任」が問われはじめています。

経済面、社会面、環境面において、また、会社としても個人としても、私たちは地球と社会に貢献せねばならず、原材料、サプライチェーン、製品のすべての点で持続可能な将来を確保するため努力をしなければなりません。当社は、透明性、公正な価値の提供、食の安全・安心を、重要なCSR課題と位置づけ、これらに対するお客様の要望に着実に応えていきたいと考えています。



社長  
**William T.K. Chuang**

フィリピンでは近年、経済発展が著しく、都市圏は建設ラッシュに沸いていますが、貧富の格差は依然大きく、飢えを感じている人々もいます。当社の工場があるレイテ島は、農業が主産業ですが、台風などの災害も多く、貧しい地域の一つです。そこで当社は、防災用土嚢づくりや被災者への食糧支給の支援、スポーツ大会などイベントへの寄付、技術系学生の長期OJT研修受け入れなどのCSR活動を続けてきました。

決して華々しい活動ではありませんが、これらを継続していくにも会社の経営が安定し、雇用維持という最低限の責任を果たし続ける必要があります。その上で、地域の人々に「ニューレイテという会社があってよかった」と思ってもらえ、従業員にも、当社で働けてよかったと思ってもらえる会社を目指します。



## 10 エネルギーの効率的利用を推進し、企業と社会の持続的な発展に努めます。 FUJI VEGETABLE OIL (アメリカ)



社長  
**酒井 幹夫**

近年、オバマ政権下のアメリカは、温暖化対策や省エネ推進を強く打ち出しており、企業が発展していくためには、こうした変化への対応は不可欠です。

そこで当社は2013年、不二製油グループのCSR方針に基づいて、特にエネルギー問題に焦点を絞り、燃料ガス使用量を製品生産高原単位で2012年比1%削減することを目指しています。具体的には、プラント内の加熱や保温のために使用している蒸気使用量を、関連設備を最適化することで削減し、これまでの燃料ガスの適正量を見直します。こうしてエネルギーの効率的利用を推進し、当社と社会の双方が持続的に発展できるよう努めます。

## 9 不二製油グループCSRビジョンをもとに、安全・品質・環境の取り組みを推進します。 吉林不二蛋白 (中国)

中国では今、経済の先行き不透明感はあるものの、生活環境は急速に変化し続けています。特に、経済発展優先の中で深刻化している環境問題や食品の品質・安全性に関する問題がクローズアップされています。地域などの違いから人々のCSRへの意識もさまざまに異なる中国のような環境でこそ、不二製油グループのCSRの考え方、ビジョンや活動方針は確かな道しるべとなります。本年は、『吉林不二蛋白有限公司のIdentity』づくりに向けて、食の創造(差別化された品質、安全・安心)、環境(省エネ、環境負荷・廃棄物削減)の取り組みを推進します。



董事長／總經理  
**西東 俊明**

## 8 安全・品質を徹底した製品づくりをより一層進めていきます。 山東龍藤不二食品 (中国)



總經理  
**鈴木 清仁**

当社の強みは、不二製油グループが長年培ってきた「品質や安全性にこだわった特色ある製品とその生産管理」にあります。中国では、食品の品質、安全性に関する消費者の要求は年々厳しくなっており、当社は自らの強みを活かして、そうした要求に応える製品を、これまで以上に提供していきます。

また、当社は山東省の農村地域にあり、龍大工業園の他社と共に地域の環境と雇用に対する社会的責任を負っています。したがって、省エネ(電気、ガス、蒸気、水、石炭)や廃棄物削減、地域農民の雇用なども、これまで以上に推進していきます。

## 6 大豆のチカラで、「上海で一番おいしく、安心できる製品づくり」を目指します。 上海旭洋緑色食品 (中国)



總經理  
**逢坂 篤**

社員たちが「旭洋の豆腐、豆乳は上海で一番おいしく、安心できる」とお客様に自信をもって説明できる製品をつくるのが、当社の社会的責任です。

当社は、新しい技術と工夫で大豆のチカラを引き出し、新製品はもちろん従来の製品も、よりおいしく、より安全に上海の皆様に食べていただけるよう努めています。また最近では、食生活の多様化によって上海でも若い人たちの大豆製品を食べる機会が減ってきており、幼稚園や大学のイベントで豆腐や豆腐デザートを紹介し、そのおいしさや健康機能を改めて理解してもらう活動を始めています。さまざまな努力を重ねて、大豆に親しみのある中国の若い人たちに、改めて大豆のチカラとおいさを再認識してもらいたいと考えています。

## 7 食の安全に誠実に取り組む、高品質な油脂食品素材メーカーを目指します。 不二製油(張家港) (中国)

昨今、中国の消費者の「食の安全」への意識は高まり、政府も規制強化や健康・栄養に関する表示の義務化を進めています。当社は、農薬その他の危険物質の混入チェック、HACCPなどに基づいた製造管理を厳格にするなど「食の安全」に誠実に取り組んでいます。さらに今年はFSSC22000の認証取得を予定しています。

国外に対しては、2012年に全製品の輸出許可の取得を完了しています。また今後、持続可能なパーム油の認証であるRSPO(SG・MB)を取得することでステーキホルダーと良好な関係を築いていきます。さらに、周辺諸国で地震、洪水などの甚大な災害があった場合、物資の供給協力を行っていきます。

当社は中国で最も安全・安心で高品質な油脂食品素材メーカーを目指します。



總經理  
**陳 銘豊**



# 不二製油グループのCSR

不二製油グループでは、CSRを「経営そのもの」とであると位置づけ、事業の中で社会的責任を果たしていくための体制、仕組みづくりに注力しています。

## 不二製油グループ CSRの考え方

不二製油グループは、CSRを、企業理念を具現化し、本業を通して社会の課題解決に貢献することと位置づけています。

「CSRは経営そのものである」という考え方のもと、事業活動の中で社会からの期待や要望に応え、常に新しい価値を提供するよう努めることで、社会と不二製油グループ双方の持続的な発展を目指しています。(CSRビジョンについては、P.2を参照。)

## CSRマネジメント

### 基本方針と推進体制

不二製油では、グループ全体のCSR活動の基本方針である「CSR活動方針」(P.2を参照)のもと、具体的な活動目標となる「CSR中計課題」及び年度ごとの「活動計画」を策定し、CSR活動を推進しています。

現在、2014年度に向けて新たな「CSR中計課題」を発表すべく、その策定に向けた準備を進めています。また、これに伴い、CSR活動の推進体制を見直す予定です。事業活動の中で、より確実に

CSR活動のPDCAを回していけるような体制を構築するため、2013年度も検討を続けていきます。

このほか、CSRグループが事務局を務める「リスクマネジメント委員会」を2013年3月に新設し、企業価値向上に向けたリスクマネジメントの推進に取り組んでいます。(委員会を含むガバナンス体制については、P.41を参照。)

### 外部のイニシアチブの活用

不二製油グループでは、CSR活動を推進していくにあたって、グローバル・スタンダードを常に念頭におき、活動の質を高めていきたいとの考えから、CSR関連の国際的なイニシアチブやマネジメントシステムを積極的に活用しています。第三者の知見に基づいて自社グループのCSR活動における内容、方針、体制などを構築、評価し、必要に応じて積極的に改善していきます。

### 国連グローバル・コンパクトへの賛同

不二製油グループでは、2013年1月、国連グローバル・コンパクト(国連GC)に署名しました。国連GCは、1999年に、当時の国連

事務総長から提唱されたイニシアチブです。企業をはじめさまざまな団体が、人権・労働・環境・腐敗防止の4分野における10の原則を実践していくことで、持続可能な社会を実現するための世界的な枠組みをつくることを目指します。不二製油グループは、今後、これらの原則の実践に努め、自社グループのみならず社会全体の持続可能性向上に貢献していきます。

### 各種マネジメント認証の活用

不二製油グループでは、経営理念において「安全・品質・環境」を最優先することを掲げています。そこで、これらに関する活動をより高水準のものとするために、外部団体提唱のマネジメント認証を積極的に活用しています。2013年3月現在、HACCP関連認証※1、ISO9001※2、ISO22000※3、ISO14001※4などの取得を進めています。

※1 Hazard Analysis and Critical Control Point: 食品の原料調達から製造・出荷に至るまでの工程で、品質安全上の問題が生じるポイントを分析・抽出し、管理していく手法  
※2 品質マネジメントシステムの国際規格  
※3 食品安全衛生マネジメントシステムの国際規格  
※4 環境マネジメントシステムの国際規格

### ▼ 主なマネジメント認証の取得状況(概略)

#### ▼ 環境マネジメント

● ISO14001  
・不二製油(株) 国内9拠点  
・国内グループ会社 1社 ・海外グループ会社 4社

#### ▼ 品質マネジメント

● HACCP関連認証  
・海外グループ会社 8社

● ISO9001  
・不二製油(株) 国内15拠点  
・国内グループ会社 3社 ・海外グループ会社 8社

● ISO22000  
・海外グループ会社 11社

● Halal(ハラール)認証(P.29)  
・海外グループ会社 10社

● Kosher(コーシャ)認証(P.29)  
・海外グループ会社 8社

### Sedexデータベースの活用

不二製油グループでは、国連GCの10原則を実践するにあたり、グループ各社のSedex (Supplier Ethical Data Exchange) ※会員登録を進めています。

2013年5月現在で、国内3拠点、海外3社が登録を完了しました。今後も顧客の要請に応じて取得を進めていきます。

※ サプライチェーン上でのCSRの実践を支援する国際的な非営利会員組織。会員企業は、「労働基準」「健康と安全」「環境」「事業慣行」の4テーマについて自社のサプライチェーンの状況を調査し、情報を他の会員と共有する

## 社外からの評価

### 受賞実績

受賞年月	アワード名	受賞課題・理由	受賞組織
2012年7月	シンガポール農食品・獣医局(AVA)「Silver Award」	AVAによる年1回の食品・製造施設の監査において、10年連続で「Grade A」(ISO、HACCPに基づいて食品の衛生・安全管理を徹底)と認定	ウッドランドサニーフーズ社
2013年2月	兵庫県「丹波すぐれもの大賞」わくわく(日常生活)部門	地元の農商工連携における優れた商品の開発(「丹波山芋焼き」)	フジフレッシュフーズ(株)／(株)河南勇商店
2013年2月	萊陽市工業園管理委員会「龍旺庄鎮2012年度先進仕事表彰大会」	業績が良好で、地域の雇用創出に貢献	山東龍藤不二食品有限公司
2013年3月	Halal(ハラール)協会「優秀Halal取得企業」認定	Halal(ハラール)認証への対応におけるドキュメント管理、工場管理、Halalトレーニングなどが評価され、認証取得後約1年で受賞	フジオイル(タイランド)社
2013年5月	公益社団法人鉄道貨物協会「協会事業協力者表彰」	2006年度時点で約4,500トンであった貨物輸送量が2012年度時点で2万トン超に。モーダルシフトを積極的に推進	不二製油(株)物流部門

### SRIインデックス※への組み入れ

不二製油は、2013年8月30日現在、国内上場企業から社会貢献性の高い企業150社をリストアップした国内初のSRIインデックス「MS-SRI」の構成銘柄に選ばれています。

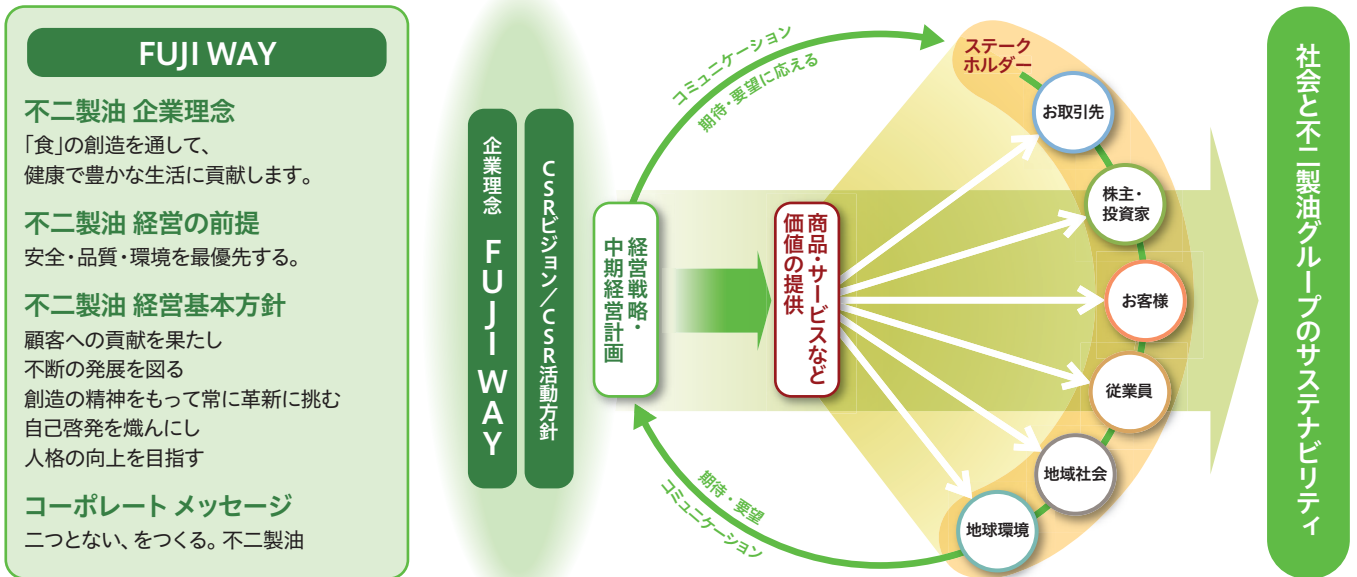
※ より社会貢献性の高い企業に投資するというSRI(社会的責任投資)の考え方により、投資対象となりうる企業を選定し、株価の動きを指数化したもの



<モーニングスター社会的責任投資株価指数について>  
この株価指数は、それを構成する銘柄を含めた将来のパフォーマンスや、指数の算出・管理に用いたデータの正確性、完全性等について保証するものではありません。また、前記事項を制限することなく、モーニングスター株式会社では、いかなる損害賠償責任も負わないものとします。  
なお、著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

#### WEB掲載情報

● 外部のイニシアチブの活用  
—— 各種マネジメント認証の活用  
表・・・認証取得状況





不二製油のCSR課題と取り組み

当社が目指すサステナブル経営実現のため、全社的なCSR課題への取り組みをCSR活動方針に沿って示しています。

2012年度活動計画に対する取り組みの総括と評価を行い、次年度の目標を設定し、PDCAサイクルで取り組んでいます。

取り組み	項目	重点テーマ	中期課題	2012年度の活動計画		2012年度の活動総括		評価	2013年度の活動計画	関連報告ページ
食の創造	価値の創造	食の課題解決	安全・安心、健康を意識した製品の新技术、新製品開発	消費者を意識した安全・安心な技術開発の推進	●低トランス油脂、低飽和脂肪酸商品：お客様の要望に合う製品開発、拡販 ●酵素エステル交換油脂：製品開発及び新油脂の開発、販売	●低トランス酸油脂：お客様への提案実施。チョコレート用油脂、マーガリン用油脂にて製品化に成功。 ●酵素エステル交換油脂：お客様への提案実施。マーガリン油脂にて製品化に成功。クリーム製品への応用も検討。 ●NSF※登録スプレー油脂：製品化に成功 ※ 公衆衛生に関連した製品やシステムを審査登録する米国の中立機関	○	酵素エステル交換油脂のクリーム及びショートニングへの実用化	P.28	
				高齢者向けの健康とおいしさに貢献する製品の開発	●健康シニア食市場での新規事業開発 ●新しい呈味(ていみ)強化油脂の開発	●風味及び機能性を有し差別化されたチーズ素材の製品化 ●新しい呈味機能油脂の実用化に向けた取り組み	○	●高齢者市場をターゲットにしてセミナーを開催 ●新技术による油脂のおいしさアップへ挑戦 ●風味材としての大豆たん白製材の開発 ●低カロリー・健康洋菓子・デザートの実用化	P.27	
			大豆事業の価値の創造による栄養健康市場の開拓や、大豆主体食品による新展開の実施	高齢者・幼児を意識した技術開発の推進	●『豆乳ぷりん(ヨーグルト風味)』4月発売(学校給食向け／乳、卵不使用) ●高齢者向け高たん白栄養食品の開発、販売	高齢者食市場向けに商品展開してゆく方針が社内で確認され、UDFマーク規格対応の「とろっとミニがんも」を発売	△	●高齢者食市場拡大を目指しUDFマーク取得推進 ●高たん白商品の開発強化 ●高カロリー飲料分野での製品用途提案の充実化 ●大豆及び油脂加工技術の両技術を利用した新素材の完成	WEBサイト	
				消費者を意識した大豆主体食品の推進	●新生産方法の確立と新機軸製品の開発・販売 ●外食チェーンへの大豆主体食品の拡大	USS製法の確立	△	●大豆ルネサンス：USS製品新製品発表会の開催 ●世界市場を視野に入れた大豆を主体とした製品の開発 ●アジアの加工食品、動物たん白主体食品向けの大豆素材の開発	P.12-13 P.27	
	安全・安心・品質	品質事故重大クレームゼロ	不二グループの危害分析技術の向上	想定外物質分析技術の構築	TOF-MS、ICP-MSなどを活用した主要原材料のリスク評価	TOF-MS、ICP-MSなどを活用した主要原材料のリスク評価の実施	△	●TOF-MS、ICP-MSなどを活用した主要原材料のリスク評価を完了予定 ●3MCPD、グリシドールエステル類の規格基準策定動向に応じて分析法(SFC-MS等)を確立、導入	P.30	
				微量金属分析、微生物迅速分析技術の確立	TOF-MS、ICP-MSなどを活用した主要原材料のリスク評価	TOF-MS、ICP-MSなどを活用した主要原材料のリスク評価の実施	△	●TOF-MS、ICP-MSなどを活用した主要原材料のリスク評価を完了予定 ●3MCPD、グリシドールエステル類の規格基準策定動向に応じて分析法(SFC-MS等)を確立、導入	P.30	
	持続可能な調達	持続可能な安定調達	調達先との関係強化	原料サプライヤーとの関係維持・強化	●原料パートナーとの関係強化 ●新規原料調達先の調査 ●資材取引先との連携強化と品質向上施策の継続	●インドネシアパートナーとの長期契約取引の継続 ●マレーシアパートナーとのパーム油取引開始 ●資材取引先との連携強化と品質向上施策の継続	○	●原料パートナーとの関係強化 ●新規原料調達先の調査 ●資材取引先との連携強化と品質向上施策の継続	P.31	
			地震等の自然災害も考慮した安定調達のためのサプライチェーンの構築	現状サプライチェーンの見直し	全購買品のサプライチェーンの明確化	●全購買品の調達先の見直し案(サプライチェーン第一次案)を作成 ●南海トラフアンケートを実施、結果を受けて対応推進中 ●お取引先300社についてBCP策定状況などを確認	○	●全購買品のサプライチェーン第一次案の見直し ●南海トラフアンケートを踏まえた対応案策定	P.15 P.31	
		環境に配慮したCSR調達	RSPOサプライチェーン確立	サプライチェーン認証の情報収集、認証取得農園との関係づくり	●グループ会社向け認証パーム油調達の継続 ●産地精製会社のサプライチェーン認証情報の収集	●グループ会社向け認証パーム油調達の継続 ●産地精製会社のサプライチェーン認証情報の収集	○	●グループ会社向け認証パーム油調達の継続 ●産地精製会社のサプライチェーン認証情報の収集	P.16 P.31	
	人権・人材	人権	人権課題の把握	グローバルベースの人権課題の把握	事業活動と人権課題の関係性調査	●CSR調達ガイドラインアンケートの実施 ●トレーサブルカカオ豆の視察、購入の検討 ●マレーシアパーム油企業と共同したCSR活動推進	●CSR調達ガイドラインアンケートを社内、国内グループ会社で実施 ●ガーナ産トレーサブルカカオ豆の農園視察、購入実施(550t) ●マレーシアパーム油企業と共同したCSR活動の検討	○	●トレーサブルカカオ豆購入継続 ●CSR調達ガイドラインアンケートの社内、国内グループ会社への実施継続と海外グループ会社への開始、及び結果を踏まえた施策の検討 ●マレーシアパーム油企業と共同したCSR活動の検討継続	P.15-18 P.31
サプライチェーンでの人権配慮の推進				主要サプライヤーの人権配慮調査の検討	CSR調達ガイドラインアンケート結果の分析による施策の検討・実施	●国内グループ会社のサプライヤー(海外のサプライヤーを含む)へのCSR調達ガイドラインアンケートを開始	○	海外グループ会社のサプライヤーにもCSR調達ガイドラインアンケートを開始	P.15 P.31	
人権意識の向上			従業員の人権意識の向上	人権啓発施策の検討	人権項目を含むグローバル行動規範のグループ内への発信と徹底	●人権項目を含むグローバル行動規範を発信 ●昇格研修等での人権啓蒙活動の実施 ●国連グローバルコンパクト加盟	○	●人権に関する啓蒙活動の拡充策の検討 ●グローバルコンパクトに関する啓蒙活動の実施	P.21-22 P.33-34	
人権に配慮した労務管理			人権に配慮したグループ労務管理の推進	海外グループ会社の人権・労働現状調査	●人事部とCSR推進室による調査の実施 ●Sedex(労働、腐敗、差別、環境)への登録推進	●調査、普及活動は実施せず ●計画通りの拠点でSedexを取得	△	●策定中	P.22	
人材		人材育成の強化	社内研修やキャリア形成支援の充実	管理職研修の充実	より充実した研修内容の改善	部長研修、考課者訓練等を実施	○	●部長研修：内容見直し後2013年度継続実施 ●考課者訓練：継続実施 対象者検討予定	P.33	
			キャリアプラン策定支援	キャリアアップコミュニケーションシートの活用と活用方法の改善	キャリアアップコミュニケーションシート活用方法の見直しと実施	○	キャリアアップコミュニケーションシート活用継続	WEBサイト		
		グローバル人材育成	グローバルに活躍できる人材の創出、海外勤務者に対する各種体制の整備	海外人材育成プログラムの検討・実施	●海外早期トレーニー制度の実施継続 ●海外グループ会社ナショナルスタッフ研修の実施	●海外早期トレーニー制度の実施を継続 ●海外出向者への面談を実施 ●海外グループ会社ナショナルスタッフ研修の実施	○	●海外早期トレーニー制度の実施を継続 ●海外出向者への面談の実施を継続 ●海外グループ会社ナショナルスタッフ研修の実施継続	P.32	
		ダイバーシティの推進	外国籍社員の採用	定年再雇用規程の見直し	●2013年4月 外国籍数名を目標に採用検討 ●再雇用者の職域開発の検討と規程の見直し	●外国籍者2名(中国、タイ)が2013年4月に入社 規程改定中	○ △	2014年4月 積極的に採用検討 再雇用制度：経過措置の採用	P.33 P.33	
				多様性を尊重する組織風土の醸成	女性の活躍の場の拡大	●外部セミナーへの積極的な参加 ●FANメンバーの公募による積極的な活動推進	●外部セミナーへの積極的な参加 ●FANメンバーの公募と公募メンバーによる活動 ●女性管理職の積極登用(実績：05年以降11名) ●介護セミナーの実施	△	海外早期トレーニーへ女性の選抜を予定	P.33
			ワークライフバランス推進	ワークライフバランスを支援する体制づくりの推進	労使による仕事の効率化推進	●ノー残業デーの実施による効率化の推進の継続と新施策の検討実施	●ノー残業デーの継続実施 ●育児、介護、自己啓発等に活用する目的でのフレックスタイム制度の取得方針の決定	○	●ノー残業デーの継続実施 ●フレックスタイム制度：各事業所の労使協定締結後、導入を図る	P.33
				多様な働き方の支援制度検討	●2012年4月 カムバックエントリー制度で1名再雇用	●2012年4月 カムバックエントリー制度で1名再雇用 ●FAN活動にて介護アンケートを実施、結果を社内HPにて共有	○	●カムバックエントリー制度：運用継続 ●フレックスタイム制度の育児、介護、自己啓発等の事由による取得容認を検討	P.33	
		労働災害、事故の防止	リスクアセスメント	全事業所での導入定着	●3工場での導入、教育の実施 ●阪南事業所での進捗管理の実施	●3工場での導入、教育の実施 ●阪南事業所での進捗管理・フォローの実施	○	未実施グループ会社1社への導入	P.34	
			安全横展開ネットワークの構築	海外情報収集と定期パトロールの実施	●環境データと合わせた海外安全情報集計 ●定期パトロールの実施 ●安全教育、情報の提供	●2009-11年の労働災害情報を収集・集計 ●休業災害が発生した海外グループ会社で現地確認実施 ●海外グループ会社2社ナショナルスタッフとの安全教育情報交換実施 ●中国グループ会社工場会議実施(安全、品質、保全)	○	●海外安全情報の収集・集計の継続 ●安全教育、情報の提供 ●中国、東南アジアのグループ会社との安全会議実施	P.34	
				メンタルヘルス該当者の復職サポート	国内グループ会社でのカウンセリング窓口の確保	●傷病救済、メンタルダウン休職者復職支援 ●策定した支援施策案を正式に規程化・制度化しグループ会社へ展開	●傷病救済、メンタルダウン休職者復職支援関連規程の改訂を実施 ●上記規程の運用のモニタリングとアドバイスの実施	○	個人健康診断データの一元管理、健康面の個別アドバイスの充実	P.34
			健康な職場づくり	健康診断受診率向上と受診後の的確なフォロー	国内グループ会社との連携	各事業所、国内グループ会社へのヒアリングを実施	国内グループ会社での説明会・研修会の実施	△	海外グループ会社を訪問し、課題集約・対応	P.34



不二製油のCSR課題と取り組み

○:計画通り進捗している    △:進捗がやや遅れている    ×:全く進んでいない										
取り組み	項目	重点テーマ	中期課題	2012年度の活動計画		2012年度の活動総括	評価	2013年度の活動計画	関連報告ページ	
環境	地球温暖化防止	地球温暖化防止	CO <sub>2</sub> 排出量:2020年 20%低減(基準年対比)	国内 2,500kL／年の電力使用 量削減(原油換算)	●パイプロ油ボイラーの利用拡大(阪南事業所、石川 工場) ●省エネ投資の推進 ●節電の推進	●国内グループ会社計で対前年比3,000kL減少(対前年比96.0%) (生産数量96.1%)(原油換算)	○	国内グループ会社計でCO <sub>2</sub> 排出量を2010年度対比6%削減	P.36	
			環境にやさしい 物流改革の推進	ソフトタンク導入とモーダルシ フト拡大	●ソフトタンク導入:数値目標の再検討、継続実施 ●モーダルシフト:活動継続 目標数値検討中 ●JRFとの交流やパートナーへの啓発の継続	●ソフトタンク利用拡大に向けた検討継続 ●モーダルシフト:JR輸送数量2,000t増加(2011年度対比) 達成	○	●ソフトタンク利用拡大:バルク輸送は課題が多く、ラウンド便の拡大を 推進する ●モーダルシフト・目標:2012年度対比 2,000t増加	P.36-37	
			省エネルギー技術の導入	省エネ技術導入:目標2,190kL／ 年の電力使用量削減(原油換算)	約2,000kLの低減	8技術で計約1,100kL低減(維持分約400kL除く)(原油換算)	△	4技術で計1,300kL低減(維持分約400kL除く)(原油換算)	P.36	
	水資源の保全	2020年 20%低減(基準年対比)	国内 給排水量 30千m <sup>3</sup> ／年の 削減	●VRCドレンの活用推進。雨水排水区別による排水 削減継続(阪南事業所) ●その他各事業所の節水活動推進		国内グループ会社計で以下の削減 給水量 約800千m <sup>3</sup> 対前年減少(対前年比95.0%) 排水量 約 60千m <sup>3</sup> 対前年減少(対前年比96.0%)	○	国内グループ会社計で給排水量を2010年度対比で6%削減	P.37	
			資源リサイクル (廃棄物の削減)	再資源化率99.8% 2013年達成	再資源化の推進、再資源化率 99.7%以上の達成	グループ会社の廃製品の再資源化の推進		国内グループ会社計の廃製品の再資源化率 99.9%	○	国内グループ会社計で99.8%以上確保を継続
	廃棄物の削減	●排水スカムの減少検討 ●動植物性残渣の有価処理による廃棄物削減などの 推進			国内グループ会社で総廃棄量 900t 減少	○	●廃白土の一部有価売却の検討実施(建材原料) ●排水スカムのメタン発酵によるバイオガス利用検討	P.37-38		
	地球緑化、 生物多様性保全	生物多様性の活動方針の 策定と取り組み推進	緑化活動継続と他事業所への 展開	大阪アドプトフォレスト「阪南の森プロジェクト」の活 動継続		「阪南の森プロジェクト」活動の継続実施	○	「阪南の森プロジェクト」の活動継続	P.38	
			事業活動と生物多様性の関係 性調査	有識者とのミーティングの実施		RSPOのモニタリング等を通じた情報収集	△	パーム農園での実地確認	P.17-18	
			生物多様性に関する重点課題 と取り組み方針の決定	WWF主催の活動への継続的な支援		WWFへの寄付継続	○	WWFへの寄付継続	－	
地域・社会		社会貢献活動の 組織的推進	社会貢献方針に基づく 国内外での貢献活動の展開	社会貢献方針の策定と推進体 制の整備	各部門が連携し、組織的推進策を実施	●総務部、CSR推進室、不二たんぱく振興財団が連携して推進策 を検討 ●CSR推進室による社外の情報の収集	△	●全社社会貢献方針の策定 ●インターネット／イントラネットを通じた社内外への情報発信 ●社外の情報を収集 ●事業と関連のある社会貢献活動の検討	P.39-40	
CSR 基盤	CSR マネジメント	不二製油グループ への理念浸透	FUJI WAYの浸透	FUJI WAY 社長と語る会の 全国実施	グローバル行動規範と「FUJI WAY」の啓蒙活動の 継続	イントラネット等を通じた経営者メッセージの社内への発信	○	イントラネット等を通じた経営者メッセージの社内への発信	－	
				「FUJI WAY」浸透ソールの作成	－	国内グループ会社5社へCSR説明会を実施、コンセプトブック、 クレドカードの配布	△	2013年レポート作成後レポート説明会を事業所単位で実施予定	－	
		CSRの浸透	CSR啓発活動の推進	部門研修でのCSR研修の順次 実施	●新入社員研修、昇格者研修、部門研修の継続実施 ●海外ナショナルスタッフ研修(英語、中国語)の実施	●新入社員研修、昇格者研修、海外ナショナルスタッフ研修、部 門研修の実施 ●国内事業所、国内グループ会社5社へCSR説明会を実施	○	●新入社員研修、昇格者研修の実施継続 ●部門研修は要請があれば随時対応 ●海外グループ会社に向けたCSR説明会を実施	－	
				CSRレポートのグループ社員へ の配布	●国内、海外グループ会社の全社員に配布 ●英語・中国語版アンケート実施によるナショナルス タッフの意見集約	●国内、海外グループ会社の全社員に配布 ●英語・中国語版アンケート実施によるナショナルスタッフの意 見集約	○	●国内、海外グループ会社の全社員に配布 ●英語・中国語版アンケート実施によるナショナルスタッフの意見集約 ●海外グループ会社に向けたCSR説明会の中でレポートについて 周知	－	
				イントラネット「CSR便り」継続 発信	イントラネット「トップメッセージ」「CSR便り」掲載内 容の充実	「トップメッセージ」は社長以外の役員も発信し、「CSR便り」は発 信の頻度を月1回程度から月2回程度に増やし発行を継続	○	「トップメッセージ」「CSR便り」の発信の対象を国内外グループ会社 にも拡大	－	
		CSR推進体制 整備と運用	CSR推進体制の構築と CSR活動の活性化	CSR推進委員会の発足と継続 的開催	回数、内容の見直し、定期的に継続開催	新たにリスクマネジメント、コンプライアンス、安品環、企業風土 の「4委員会」を設置	○	4委員会実施による、経営層への重点項目の報告 及び重要課題の審議決定を行う	P.21 P.41-42	
				CSRビジョン・活動方針の策定 とCSRマネジメントシステムの 整備	第三者ダイアログの実施	神戸大学三品教授第三者ダイアログ継続実施	神戸大学三品教授第三者ダイアログの実施	○	第3者ダイアログ、社内座談会を積極的に実施	－
				活動計画の進捗状況の確認	●CSR中計課題をレポートに掲載、活動の見える化 ●CSR実行委員会にて中間、結果報告を継続実施	●CSR中計課題のCSRレポートへの掲載 ●CSR中計課題一覧作成による、継続的な進捗確認の実施	○	新中計に向けた、現・CSR中計課題の見直し及び新活動計画の策定	P.21	
	コンプライアンス	コンプライアンス 意識向上と グループ会社展開	コンプライアンス推進体制の 再構築と活動の徹底	グローバル行動規範の策定	●「不二製油グループ・グローバル行動規範」の発信 ●「不二製油グループ・ビジネス行動ガイドライン」 策定	●「不二製油グループ・グローバル行動規範」の策定、国内外グ ループ会社への発信 ●「不二製油グループ・ビジネス行動ガイドライン案(ユニバー サル版)」を策定中	○	各国語でのブックレット作成、イントラネットへのPDF掲載	WEBサイト	
			グローバルコンプライアンスの 確立	国内・海外グループ会社 コンプライアンス対応状況の 調査	●グループ会社への行動規範説明会を実施 ●地域別、国別のリスクを抽出しビジネス行動ガイド ラインへ反映	●研修にてコンプライアンス、行動規範に関する説明を開始 ●中国での贈収賄コンプライアンスのガイドラインを作成、在中 国のグループ会社へ発信	○	海外法令違反リスクについてのガイドラインを作成、グループ報に掲載	P.41-42	
	リスク マネジメント	リスクマネジメン トの強化	リスクマネジメント再構築	グループリスク情報の収集と 把握	●CSRアンケートをもとにグループグローバルリスク マネジメントを推進	●コンサルタントを入れてリスク管理方法を検討 ●役員リスク調査の実施    ●リスク重点部門ヒアリングの実施 ●経営戦略会議にて報告	○	方針策定及びガバナンス体制の見直しによりPDCAを回す仕組みを 構築	P.41-42	
			BCMの全社的推進	地震安全対策BCPの策定	●各事業所の地震対策要領の制定と見直し ●各部門の事前準備の策定 ●地震被害想定見直しへの対応策検討	●各事業所地震対策要領の制定と見直し実施 ●生産機能代替の一次案集約	○	●国内全事業所で生産代替、情報代替のBCP策定 ●国内事業所の地震対策の具体的準備の実施	P.42	
	CSR サプライチェーン マネジメント	CSR調達 マネジメント	CSR調達の取り組み強化	サプライチェーンCSR調達の ガイドラインの策定	●お取引先への発信と本格運用 ●CSR調達ガイドラインをもとにアンケートを作成、 実施	●CSRガイドラインの改訂(人権に関する言及追加) ●CSRガイドラインアンケート作成 ●国内部門、グループ会社でのアンケートの実施	○	●CSR調達ガイドラインアンケートの分析 ●海外グループ会社へのアンケート開始 ●CSR調達ガイドラインアンケートの見直し	P.15 P.31	



# 「食の創造」に関する取り組み

私たち不二製油グループは、「新しいおいしさ」の創出に向けたトータルソリューションをご提案できる企業として、お客様とともに「二つとない」製品の開発に取り組んでいます。  
また、事業の基盤である食の安全・安心の確保や、持続可能な調達の実践にもグループ全体で取り組んでいます。

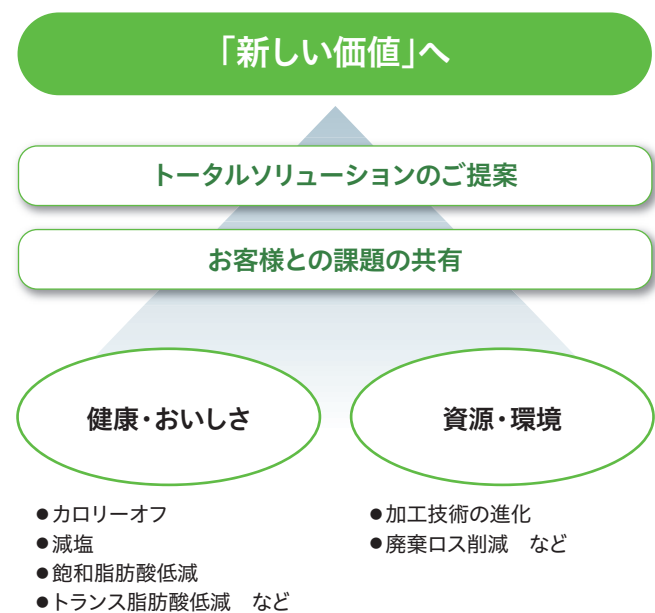
## 価値の創造に向けた取り組み

### 不二製油の製品開発

#### 新たな価値を創造する製品開発

不二製油では、「新しい価値」を生み出すために、おいしさや健康機能などの付加価値を提供することを製品開発の基本姿勢としており、すべての事業において、お客様と課題を共有し、その解決に貢献するトータルソリューションをご提案しています。

#### ▼製品開発の基本姿勢



#### 健康・おいしさ

#### おいしさにこだわったカロリーオフの製品開発

不二製油は、油脂からそれを用いた食品素材までを一貫して製造している強みを活かして、2007年から「低油分製品」の開発を進めています。ひと口に低脂肪と言っても、単純に脂肪分の含有量を減らすだけでは、素材の機能性やおいしさを損なう可能性があります。そのため不二製油では、これを防ぐための加工技術の確立に取り組んできました。

現在はホイップクリームやチョコレートなど、製菓素材分野で低油分製品を販売しています。今後は健康を訴求した素材など、他の分野でも製品を展開していく予定です。



ホイップクリーム

#### 「減塩」への貢献

生活習慣病の予防や食事療法においては、塩分摂取を控えることがしばしば必要です。特に近年は、先進国を中心に食品の塩分含有量を気にかける人が増加していますが、塩分量を減らすだけでは食事から得られる満足感が低下してしまいます。

2011年度に開発した「<sup>ていみ</sup>呈味強化油脂」は、塩味をはじめ、甘味や酸味などさまざまな風味を強調する機能を有しており、



呈味強化油脂を使ったエビチリ

#### VOICE 担当役員から

### 国内外で営業を強化し、製品の普及を目指します。

不二製油グループは、「環境」「安全・安心」「健康・おいしさ」をキーワードに、お客様と課題を共有し、トータルソリューションをご提案できる企業を目指しています。2012年は「製品説明会」を開催し、外食産業のお客様に広くPRする場を設けました。いま外部環境は大きく変化しており、日本では少子高齢化が顕著に現れています。2013年は営業本部では「ONE STOP 営業」体制※を確立し、新たなボリュームゾーンであるシニア市場を創造することに挑戦してまいります。

海外においては、現地のニーズを正確に捉え、新市場にさらに広く展開し、最適地生産体制とサステナブルな調達の対応をもとに、日本の強みである食の文化の伝道師たることを目指してまいります。

※ ONE STOP営業体制：お客様に1人の営業担当者から、当社の全取扱商品を購入頂ける営業体制を指す。



取締役専務執行役員 営業本部長  
兼 国際本部長 兼 東京支社長

中村 修

中には食品中の塩分を約20%減らしても風味が落ちない製品もあり、現在は主に、スナック菓子やスープ系食品、乳化系食品などの辛味製品の減塩に活用されています。

今後はさらに呈味強化の機能を高め、塩分40%低減を目標に開発を進めていきます。また、呈味強化油脂自体の風味改良にも取り組んでいきます。

#### 飽和脂肪酸・トランス脂肪酸の低減

「飽和脂肪酸」や「トランス脂肪酸」は、油脂の硬度や融点を調整し、機能性を向上するために活用されてきた成分ですが、お客様の中には、これらの成分の含有量低減を求める声もあります。

不二製油グループでは、国内外のニーズに迅速に対応できるよう、低飽和脂肪酸・低トランス脂肪酸の製品を開発・販売しています。フジオイルヨーロッパ社では低トランス脂肪酸・低飽和脂肪酸油脂を両立させたフィリング用油脂「Redusat」を販売、提供しています。



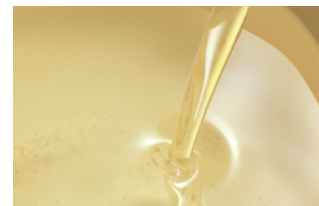
低トランス脂肪酸・低飽和脂肪酸油脂を使ったクロワッサン

#### 資源・環境

#### 製品による環境負荷の低減

不二製油は、原料調達から製品開発、製造に至るまで一貫して環境に配慮しています。

特に原料の加工工程においては、環境負荷の少ない技術を積極的に開発・導入しています。例えば、油脂の加工に「酵素エステル交換技術」を導入することで、使用する化学物質の量を減らし、水の使用量も抑えることができます。



フライ油「スーパータフロンG」

#### VOICE 担当役員から

### 保有するすべての知識・技術を融合し、世界で必要とされる商品を開発していきます。

研究部門を一体化し、グループの総合力を活かし、世界のお客様に喜ばれる商品開発を進めてまいります。

昨年まで事業分野別に運営していた研究体制を、本年度より、「研究開発本部」として統合致しました。この新組織は、「基盤研究所」「食品素材研究所」「食品応用研究所」「研究戦略室」「知的財産室」から構成され、各研究所においてはグループが保有するすべての技術が融合し、継続的に新製品・新事業が創出される体制とし人材配置を行いました。

また、新設の研究戦略室を世界に点在する研究機関のインターフェース部門として位置づけ、世界の市場に必要とされる商品をいち早く開発しお届けできるグローバルな開発体制も整えてまいります。



取締役常務執行役員  
研究開発本部長 兼  
つくば研究開発センター長

前田 裕一

また、廃棄のロスをできるだけ少なくする製品開発にも注力しています。フライ油「スーパータフロンG」は、おいしさを保ちながら従来の油より長期間使用できる機能などの特性をもち、廃油を減らすことができます。

## 市場への情報発信

#### 「不二製油製品説明会」の開催

当社は2012年度、これまでのお客様に加えて、さらに多くの方に不二製油の製品を知っていただくことを目的に、外食産業を対象とした「製品説明会」を開催しました。

当日は、環境や健康へのこだわりといった当社の取り組みに対する考え方や事業ビジョン、製品について説明した後、試食会にて実際に製品を味わっていただきました。参加者からは概して良い評価をいただき、不二製油について理解を深めていただく機会となりました。

2013年度は、今後より一層需要が高まる高齢者市場の市場関係者を対象にしたセミナーを開催する予定です。今後もお客様と積極的に対話し、ともに食の創造に努めていきます。



2012年10月「不二製油製品説明会」 当日の様相

#### WEB掲載情報

- 新たな価値を創造する製品開発
  - ・「酵素エステル交換油脂」の開発
  - ・高齢者向け介護食の開発
  - ・低環境負荷とおいしさを両立する商品の開発







## CSR調達の実践

### 安定調達のために

大地震などの大規模災害の発生時において、サプライチェーン全体で事業継続することは重要な課題です。不二製油グループでは、災害による原材料などの供給遅滞リスクについて調達取引先ごとに把握し、対策に努めています。

2012年8月には、近い将来発生すると予想されている「南海トラフ巨大地震」被害想定の内閣府からの発表をもとに、調達取引先各社の想定震度・津波を把握いただいた上でアンケートを実施し、生産状況の実態や緊急時の体制について確認しました。この結果、対象とした調達取引先86%から、地震発生時より2週間以内に原材料などの供給を再開できるとの回答を得ました。一方、BCPの策定状況についても確認したところ、策定済または検討中の調達取引先は全体の40%にとどまりました。

今後はこの結果をもとに、サプライチェーンを見直すとともに、調達取引先でのBCP策定を呼びかけていく予定です。2013年度に再度アンケートを実施し、継続的に状況を確認していきます。

### 人権や環境に配慮した原料調達

不二製油グループは、生産者の労働環境などが適正であること、近隣の自然環境に悪影響のない方法で生産され流通していることが確認できる原材料の調達に取り組んでいます。例えば、パーム油に関しては、RSPO（詳細はP.16を参照）の加盟企業とのみ取引しています。

また、カカオ豆に関しても、世界カカオ財団(World Cocoa Foundation)による、農家への技術提供などに



World Cocoa Foundation  
www.worldcocoa.org

よって持続可能なカカオ経済の進展を目指す活動に賛同し、2012年に同財団に加盟しました。この活動の基本的な考え方は、同財団の「サステナビリティ3原則」に集約されています。さらに2012年度からは、購入するカカオ豆の一部を「トレーサブルカカオ豆」とする取り組みも開始しました。「トレーサブル」という言葉は通常、原産地や流通経路が明らかであることをさしますが、このカカオ豆は産地や生産農園が特定できるだけでなく、購入資金の一部が生産地でのインフラ整備や教育の質の向上などに役立てられます。



トレーサブルカカオの管理体制などを現地で確認

このほか、フジ オイル ヨーロッパ社ではフェアトレードの認証を取得し、お客様のご要望に応じてフェアトレード認証の原料を使用した製品を生産・販売しています。

### WCF サステナビリティ 3原則

- 利益** 農家のための公正かつ十分な経済的利益
- 人** 健康的で豊かな生活を営むカカオ農家とコミュニティ
- 地球** 信頼できる確かな環境に対する責務

### WEB掲載情報

- 公平・公正な取引
  - 基本的な考え方
  - 図・・・購買基本方針(CSR調達)
  - 下請法などの遵守
- CSR調達の実践
  - ・より災害に強い調達方法の検討
  - ・CSR調達ガイドラインの策定と活用
  - 図・・・サプライチェーン認証取得拠点

# 「人材・人権」に関する取り組み

世界11カ国で事業を展開するグローバル企業として、基本的人権を尊重し、多様な働き方を支援することで、社員一人ひとりの成長と会社の発展が共に実現することを目指しています。

## 人材理念

### 基本的な考え方

不二製油グループでは、人材は会社を支える財産であるという考えのもと、2012年に「人材に関する方針」「人権に関する方針」を定めました。その中で、意欲ある人材が、国内はもちろん海外においても活躍できるよう、教育と環境整備の両面から支援することを約束しています。一人ひとりが能力を発揮できる職場づくりに取り組むことで、製品品質やサービスの向上、ひいては会社の発展につなげ、社会から信頼される不二製油グループであり続けることを目指します。

### 人材に関する方針

1. 意欲のある社員に、イキイキと能力を発揮できる職場を積極的に提供します。
2. グローバル企業として、多様な人材が活躍できる環境を整えます。
3. 公平・公正な人事制度(評価/処遇/育成)を構築・運営します。
4. 教育・研修制度を充実させ、自己啓発を支援する風土づくりに努めます。
5. 多様な働き方を支援し、安全で働きやすい職場を提供します。

### 人権に関する方針

1. グローバル企業として、基本的人権に配慮し、国際的な人権規範を尊重します。
2. 国籍、人種、性別、年齢、宗教、障がいなどに基づく不当な差別は行いません。
3. 児童労働・強制労働・不当な低賃金労働の防止に取り組みます。
4. 雇用における機会均等を推進します。

## 企業風土委員会の設置

事業のグローバル展開の加速に伴い、多様な従業員が活躍でき、企業競争力の向上に資するような風土づくりが求められる中、不二製油は2013年3月に、社長を委員長とする「企業風土委員会」を新たに設置しました。本委員会は、明るく元気な「人づくり」を目指す活動、社員の人格を鍛える活動に取り組むとともに、ガバナンス面では企業風土の醸成及び推進を通じた内部統制における統制環境の基盤づくりに寄与します。

## 人材育成

### グローバル人材の育成

#### 海外早期トレーニー制度の実施

不二製油では、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的に、若手社員を対象にした約6カ月間の海外研修制度「海外早期トレーニー制度」を2011年6月に設けました。

2012年度は、前年度の5名より多い12名を中国、シンガポール等に派遣し、語学を学んでもらったほか、現地グループ会社で研究開発、営業、生産の各職場を体験してもらいました。帰国後には、前年に引き続き、現地での成果をプレゼンテーションする「海外早

期トレーニー報告会」を開催し、研修成果の共有や、今後の研修内容をより良いものとするための意見交換を行いました。

2013年度もこれらの取り組みを続け、グローバル人材の育成に注力していきます。



米国の語学学校の仲間と

### ナショナルスタッフ(現地人材)の育成

不二製油グループは、海外展開を加速していく上ではナショナルスタッフの育成が重要であるとの考えのもと、海外現地スタッフが「FUJI WAY」を理解し、日々の仕事の中で実践できるよう取り組んでいます。2012年度は、海外グループ会社の現地社員が「FUJI WAY」について学ぶ「ナショナルスタッフ研修」を初めて実施しました。今回は欧州、米国、東南アジア、中国から16名が参加し、分野ごとにグループの事業について学んだほか、研究所・工場見学、ワークショップなどを体験しました。最後には成果発表を行い、相互の文化理解とグループ理念の共有に努めました。

また、本社の人事の担当者が海外グループ会社を訪問し、経営トップ以下のマネジメント層と、企業理念や経営基本方針をテーマに活発な議論を交わしました。

2013年度も引き続き、グループ全体に「FUJI WAY」を浸透させるべく取り組んでいきます。

この他、本社で毎年実施している「PIC(生産性推進)成果発表会」「チャレンジイノベーション発表会」では、海外グループ会社も参加し、中には賞を受賞するなど、現地の人材育成にも一役買っています。

### VOICE ナショナルスタッフ研修参加者から



日頃学ぶ機会のないことを  
学ぶことができました。

Fuji Oil Europe  
Project Engineer Instrumentation  
Hans Bostyn

今回の研修では、大変興味深い体験ができました。本社がある日本の社員とコミュニケーションする上での注意点などはなかなか自国では学べないものでしたし、各国の仲間たちと、それぞれが抱えている課題や、その課題への取り組み方法を教え合ったことも、今後役に立つと思っています。

グループの中長期戦略や行動規範の意義、3S※1・PIC※2など安全・品質・環境を確保する上での原則を学べたことも有益な体験でした。特に工場見学では、衛生管理の重要性を強く感じました。

この体験を、これからの仕事に活かしていきたいと考えています。

※1 作業環境改善における原則。整理・整頓・清掃をさす

※2 不二製油の生産、開発などの現場で行われている各種小集団活動

### VOICE 担当役員から

## CSR調達ガイドラインに基づき、サプライチェーンマネジメントを強化していきます。

2012年度はより一層サプライチェーンマネジメントを意識した活動を行いました。

調達関連では、南方系油脂において、農園系等のパートナー企業との長期購買契約締結により、関係強化と安定調達を実施しました。お取引先に対しては、「CSR調達ガイドライン」を策定、アンケートを実施することで、より公平・公正な取引に努めています。

物流部門は環境にやさしい輸送としてモーダルシフトを着実に実行し、公益社団法人鉄道貨物協会から表彰を受けました。

今後もすべてのステークホルダーとの良好な関係構築を目指し、サプライチェーンマネジメントを強化していきます。



取締役常務執行役員 原料部・資材部・ロジスティクス部 担当

寺西 進



## 階層別研修の整備

不二製油では、「企業の発展は人の育成から」という考えのもと、階層別の研修体系を整備し、キャリアアップ支援の充実を図ってきました。近年では、グローバル展開の加速化を踏まえ、次代の経営者となる管理職の研修にも力を入れています。

2005年度から実施している「部長研修」は、経営に参画できる人材の育成を意識し、経営課題などについて経営層へ提言するという、経営に踏み込んだ内容としています。さらに2008年度からは、部長研修の受講者に、経営に対する基礎知識を身につける「ビジネススキルアップ研修」を併せて受講するよう義務づけています。2012年度は、15名が部長研修に参加しました。

## ワークライフバランスの推進

### 次世代育成支援

不二製油グループは、社員のワークライフバランス、特に育児や介護と仕事の両立を重視し、多様な働き方ができる環境を整備しています。2012年度は9名(うち男性1名)が育児休暇を取得しました。また、

出産・育児・介護などでやむを得ず退職した社員が、当人の希望に沿った勤務形態で職場復帰できる「カムバック・エントリー制度」を2011年度から導入しており、2012年度は1名が本制度を利用しました。

2013年度は、一部拠点で導入しているフレックスタイム制度を、全拠点に拡大する予定です。

## 人権への配慮

不二製油グループは、基本的人権に配慮し、国籍、人種、性別、年齢、宗教、障がいなどに基づく不当な差別をしないことなどを「人材理念」及び「不二製油グループ行動規範」に明記し、国内外で共有しています。2013年1月からは、持続可能な社会の実現に向けて人権を含む各課題への対処の枠組みを定めた「国連グローバル・コンパクト」にも参加しています(詳細はP.21を参照)。

これらの規範や枠組みのもと、不二製油グループでは、研修で行動規



2010年には次世代認定マーク「くるみん」を取得

範の内容を浸透させるとともに、グループ報に関連記事を掲載するなどして人権啓発に取り組んできました。加えて、「人権」をテーマとした研修プログラムの策定・実施に向けて準備を進めており、2012年度は社内講師の育成に取り組みました。2013年度は、社内講師による研修のほか、社内イントラネットによる社員教育を実施する予定です。



行動規範の啓発ポスター

## 通報・相談窓口の設置

不二製油グループは、非正規雇用を含むすべての従業員、国内グループ会社の従業員が利用できる通報窓口を社内外に設置し、人権・労働に関することを含めて、コンプライアンス上の疑問点やトラブルについての相談を受けつけています。

社内窓口はコンプライアンス担当役員及び法務部長に、社外窓口は弁護士事務所に直通しており、いずれの窓口でも、公益通報者保護法に準じて通報者に不利益がないよう配慮しています。これらの窓口については、社内研修、イントラネットやポスターを通じて周知しています。

2012年度の通報は4件で、いずれも適切に対処しました。

## 労働安全衛生

### 労働安全衛生向上への取り組み

不二製油グループは、生産拠点での労働災害の発生防止を重要な課題と考え、対策に努めています。特に、これまでの、普段の作業中での注意不足が災害の発生につながってきたことから、危険予知の習慣づけなどに継続的に取り組んでいます。

2012年の国内グループの全労働災害発生件数は24件(うち休業災害が4件)となり、休業災害は減少しました。しかし、全体の災

害件数はこの4年間では増加傾向にあることから、引き続き災害発生防止に注力していきます。

### 社員の健康への取り組み

従業員の心身の健康を確保するためには、その健康管理を長期的に支援していく必要があります。このため不二製油では、メンタルカウンセリングの実施や健康相談窓口の設置、感染症などについての迅速な情報提供など、さまざまな取り組みを継続的に実施するとともに、その内容の充実に努めています。厚生労働省が特に予防を呼びかけている「生活習慣病」については、国内拠点で健康診断の際に40歳以上の従業員全員を対象として特定保健指導を実施しています。

2012年度は、海外出向者に対する健康管理の支援内容と体制を見直し、フォロー体制をより充実させました。2013年度には、健康診断実施後の2次検診の受診率向上に取り組んでいきます。

## 従業員データ

### ▼従業員数内訳(不二製油、2013年3月31日現在)(人)

	男性	女性	計
役員(社外役員除く)	15	0	15
正社員・嘱託	976	186	1,162
準社員	76	56	132
契約社員	65	21	86
平均年齢(従業員)	42歳1カ月	36歳11カ月	41歳3カ月
平均勤続年数(従業員)	18年3カ月	14年7カ月	17年9カ月
自己都合による離職率			0.76%

### ▼新卒採用者数(人)

	2010年度		2011年度		2012年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学・大学院卒	15	9	15	6	15	6
高校・高専・短大・専門卒	7	3	10	0	4	1
合計	34		31		26	

## ダイバーシティの推進

不二製油は、めまぐるしい社会環境の変化に対応できる、より競争力ある会社となるべく、ダイバーシティの実現に注力しています。

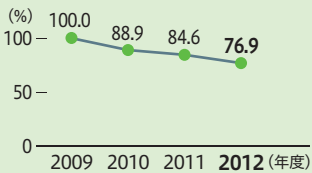
### 多様な人材の活用

海外展開を進めてきた不二製油では、自社のニーズに合った能力をもつ人材を、国籍を問わず採用しています。2012年度は外国籍の社員2名を採用しました。

また、高齢者雇用安定法の改正に合わせて、65歳までの定年退職者再雇用制度を設け、運用してきました。再雇用にあたっては、就労条件が本人の希望にできるだけ沿うよう、個別に面談を実施しています。2012年度は13名が定年を迎え、希望者10名全員が引き続き活躍しています。

就職困難者を対象とした面接会に参加するなど、障がい者雇用にも取り組んでいます。不二製油の2012年度の障がい者雇用率は1.90%で、法定雇用率1.80%を上回りました。

#### ▼定年退職者雇用率(不二製油)



#### ▼障がい者雇用率(不二製油)



### 女性社員の活躍支援

不二製油では、1998年に「不二アクティブネットワーク(FAN)」を設立し、男女の区別なく誰もが自らの能力を発揮できる職場風土づくりに取り組んでいます。

これまでは主に、仕事と育児の両立支援や、社員の意識改革に取り組んできましたが、2012年度からは仕事と介護の両立も取り組みテーマに追加。介護に関する社員の意識の現状把握のためアンケート調査を実施するとともに、介護に関する社内外の制度をまとめた「介護おたすけノート」を作成し、イントラネットに掲載して常時閲覧できるようにしました。2013年度には、人事部と共同で、アンケートで要望が多かった、介護支援制度とその利用法を紹介するセミナーを実施する予定です。

### TOPICS

#### 外部講師を招き、ダイバーシティについての役員研修と座談会を実施

不二製油は、社内ダイバーシティについての共通認識をもつことを目的に、2012年11月、ダイバーシティ・ワークライフバランスのコンサルタント、パク・ジョアン・スックチャ様を講師に招き、役員研修と座談会を実施しました。

役員研修では、社長以下全役員を対象に、多様な人材を活かして企業競争力を向上させる戦略について講義いただきました。その後、人事担当役員や経営企画本部役員はじめ、人事部やFANからも人員が参加して、約10名で座談会を実施。不二製油のダイバーシティにおける現状の課題と今後の施策について活発に議論しました。

2013年度は、これらの内容をもとに具体的な施策を検討していきます。



パク・ジョアン・スックチャ様(後列左)との座談会

### VOICE 担当役員から

「打てば響く、小気味良い」会社を目指して、「人づくり」に注力していきます。

2012年度は特に海外人材の育成に力を入れて取り組みました。海外早期トレーニー(若手社員の6カ月海外研修)制度は、12名が貴重な体験をし、異文化を肌で感じてもらいました。今後は早い時期に海外で活躍してもらいたいと考えています。また、海外グループ会社現地スタッフが来日し不二製油にて研修を実施、DNAの一端を学びました。特に女性の活躍が目立ちました。本年度も継続していきます。「清く、正しく、明るく、元気」な人材を育てるために、不二グループの良き文化を担う「人づくり」で、スピードのある「打てば響く、小気味良い」会社を目指します。



取締役専務執行役員 人事総務本部長  
兼 コンプライアンス担当 兼  
熊取研修所長

岡本 和三



# 「環境」に関する取り組み

不二製油グループは、長期ビジョン「不二グループ環境ビジョン2020」のもとで、地球温暖化の防止や資源の有効活用に継続的に取り組み、持続可能な社会の実現への貢献を図っています。

## 環境マネジメント

### 重点目標を定めて環境保全活動を推進

不二製油グループでは、2011年6月より、重点的に取り組むべき環境保全活動とその目標を定めた長期ビジョン「不二グループ環境ビジョン2020」に基づき環境活動を進めています。

国内グループでは、「地球温暖化防止」「水資源の保全」「資源リ

サイクル」に関して、それぞれ「CO<sub>2</sub>排出量」「給排水量」「再資源化率」を指標と定め、具体的な数値目標を設定しています。中でも地球温暖化防止と水資源の保全では、取り組みをより実効あるものとするため、「基準年比20%削減」と絶対値で目標を設定しています。また、緑化をはじめとする生物多様性保全の取り組みも積極的にを行うことを明記しています。

### 安全品質環境委員会の設置

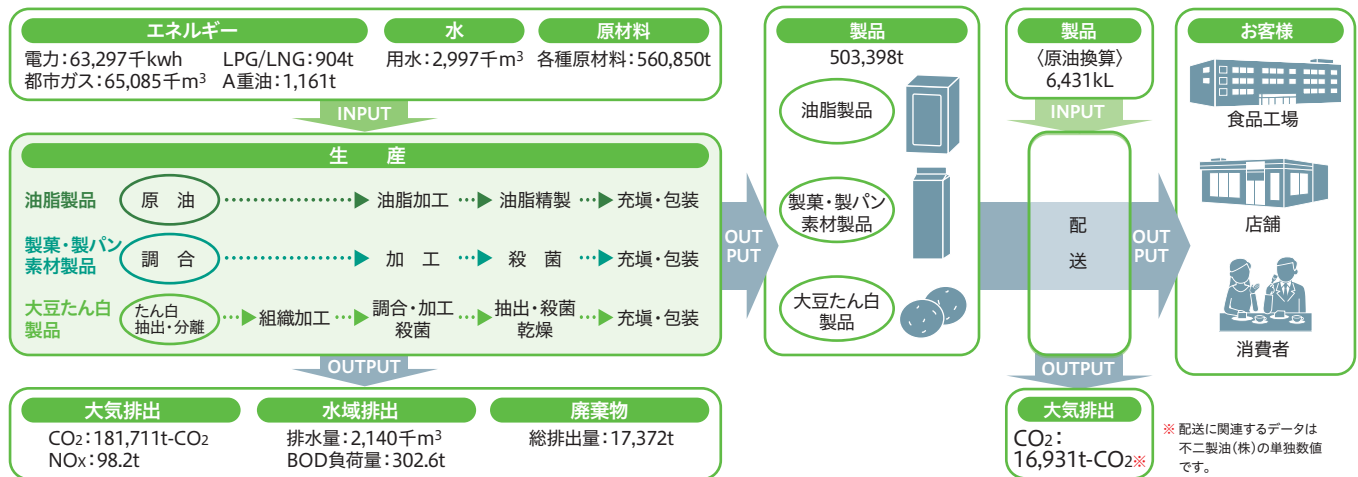
不二製油グループは2013年3月、「安全品質環境委員会」を新たに設置しました。安全・品質・環境とは当社の経営理念にも記された「経営の基本」であり、本委員会はグループ経営の基盤を確固たるものにすることを目的として「企業活動による人的・物的危害の防止」「製品による顧客への被害の防止」「生産活動による環境負荷の低減」に関する政策を立案し、社長・経営会議に具申します。（詳細はP.41を参照。）

### ▼ 環境活動の目標と実績（2012年度）

○：目標を達成 △：目標を75%以上達成

	項目	内容	2012年度実績	評価	2013年度目標
1	省エネ推進	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	2010年度対比3.6%減	△	2010年度対比6%の削減(国内グループ)
2	給排水削減	給水量の削減	2010年度対比5.1%減	○	2010年度対比6%の削減(国内グループ)
		排水量の削減	2010年度対比3.0%減	△	
3	廃棄物削減	排出廃棄物の削減	再資源化率99.91%	○	再資源化率99.8%以上(国内グループ)
4	省エネ推進(海外グループ)	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	2010年度対比5.1%減	○	2010年度CO <sub>2</sub> 排出量の維持(海外グループ)

### ▼ 環境負荷の全体像



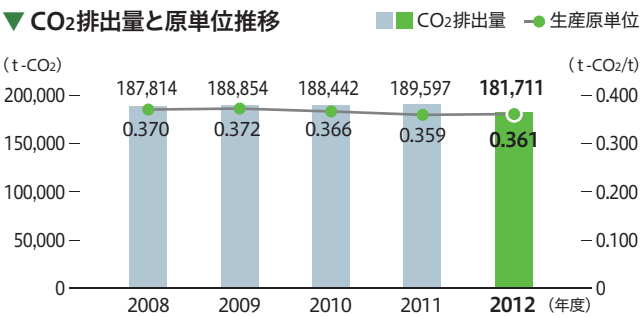
**WEB掲載情報**

- 環境マネジメント
  - 基本的な考え方
  - 環境マネジメント体制の強化
  - ISO14001認証取得と環境監査
- 事業活動と環境負荷低減 (INPUT / OUTPUT)
  - 環境会計
- 地球温暖化防止への取り組み
  - 節電への取り組み
- 資源の有効活用
  - オフィスでの紙使用量削減
- 汚染防止
- 環境配慮製品
  - 図・・・年度改善目標の例(抜粋)
- 海外グループ会社の2012年度環境データ
  - 図・・・開発品の例
  - TOPICS・・・環境製品の販売を拡大し、世界中で資源の節約に貢献

## 地球温暖化防止への取り組み

2012年度は、国内グループ全体で燃料転換※などに取り組みました。景況悪化に伴う生産量の減少もあり、不二製油及び国内グループ会社のCO<sub>2</sub>排出量は2011年度対比4.2%減の181,711t-  
CO<sub>2</sub>となりました。生産原単位は0.6%増加と、ほぼ昨年度並みの数値となりました。

※ 使用する燃料を、より温室効果ガス排出量の少ないものに変更すること



### 省エネ技術の導入推進

#### 国内グループの取り組み

不二製油及び国内グループ会社では、事業活動によるCO<sub>2</sub>の排出を減らすために、よりエネルギー効率の高い設備・技術の導入に取り組んでいます。2012年度はエネルギー使用量を原油換算で年間2,000kL削減することを目指し、大豆たん白製品の製造プロセスで発生した残渣の処理方法を変更したことなどによって、原油換算で年間700kL分のエネルギーを節約することができました。その他、設備を改修して乾燥機、洗浄設備などからの排熱を回収・再利用できるようにしたり、蒸気漏れによるエネルギーのムダを減らすべく関連設備を点検補修するなどの施策を推し進め、エネルギー使用量を原油換算で年間2,118kL削減することができました。

2013年度は、エネルギー使用量を原油換算で年間1,700kL削減

#### VOICE 現場リーダーから

**徹底的な改善活動で省エネを達成しました。**

工務部 油脂グループ  
グループリーダー  
**佐藤 修巳**

堺工場では、2012年度に、すべての製造プロセスを対象として省エネのテーマアップ(提案)活動を実施しました。

幾つかの分析手法も使いながら徹底的に現場を調べ上げ、ムダの削減に取り組んだ結果、2013年4月末時点で4%の省エネ(原油285kL相当)を達成しました。さらに、2014年までに約10%(原油630kL相当)の省エネを達成することを目的に、順次取り組みを提案、実施しています。

今回の活動をモデルケースとして、今後、不二製油グループ全体に手法を展開していきます。

減することを目指し、排熱回収を目的とした設備改修と、設備点検補修によるムダの削減に引き続き取り組んでいます。



大豆加工後の残渣処理設備

#### 海外グループの取り組み

海外グループ各社でもCO<sub>2</sub>排出量削減に取り組んでおり、特に環境への関心が高いヨーロッパの拠点では、さまざまな取り組みを積極的に検討・実施しています。

2012年度には、ベルギーのフジ オイル ヨーロッパ社で、植物油脂を精製するための脱臭塔に付随する冷却設備を更新しました。これにより、年間で20%、原油換算にして873kLのエネルギー使用量を削減しています。新しい設備では従来とは異なる方式を採用しているため、工場周辺への臭気の漏れもなくなることができました。

### バイプロ油(バイオ燃料)の活用

不二製油は、2010年1月、バイプロ油を燃やしてエネルギーを得る「バイプロ油ボイラー」の利用を開始しました。

バイプロ油とは、植物原料を用いた製造工程で発生する副産物・廃棄物に含まれる油を、バイオ燃料の一種として活用するものです。原料である植物が生育時にCO<sub>2</sub>を吸収するため、燃焼時の排出量を相殺できるとされます(カーボン・ニュートラル)。

これまでに、阪南事業所・石川工場の2拠点にバイプロ油ボイラーを設置しており、2012年度の上記拠点でのバイプロ油使用量は計1,592kLと、2011年度比で16.7%増加しました。化石燃料を使用した場合と比べ、3,080tのCO<sub>2</sub>排出量を削減できた計算になります。今後はさらに取り扱い油量を増加していきます。

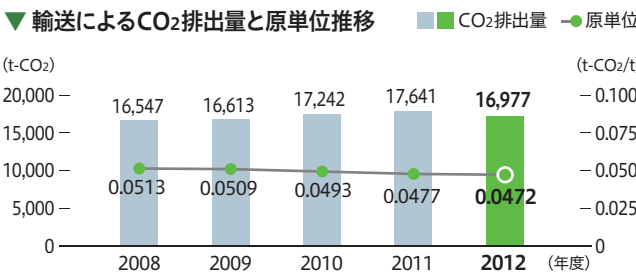


バイプロ油ボイラー

### 輸送によるCO<sub>2</sub>排出量の削減

2012年度に不二製油及び国内グループ会社から排出されたCO<sub>2</sub>のうち、輸送によるものは16,977t-CO<sub>2</sub>と前年度より3.8%減少しました。これは、主にモーダルシフトの推進や配送ルート見直しによる製品輸送距離の短縮などによる結果です。原単位※でも1.2%減少しました。

※ CO<sub>2</sub>排出量／国内販売配送数量





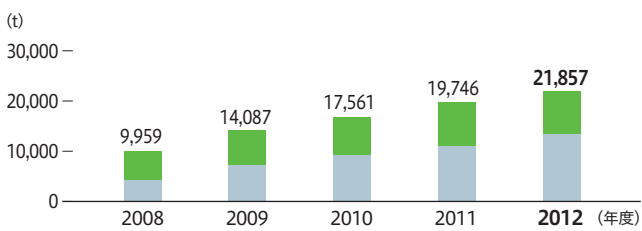
## モーダルシフトの推進

不二製油では、自動車や飛行機による輸送を鉄道輸送に切り替えることでCO<sub>2</sub>排出量削減を図るモーダルシフトに注力しています。輸送パートナーとの議論を通じ、輸送方法の変更にあたっての課題や問題点を抽出し、順次解決することで鉄道輸送量を増やしています。

2012年度の鉄道輸送量は21,857tとなり、昨年度より2,111t増加しました。なお、これにより、公益社団法人鉄道貨物協会※から「協会事業協力者表彰」を受賞しています。2006年に約4,500tであった鉄道輸送量が、2012年度時点で2万tを超えたことが評価されました。

※ 貨物の安定輸送及び環境にやさしい輸送を支援する業界団体

## ▼ 鉄道輸送量の推移

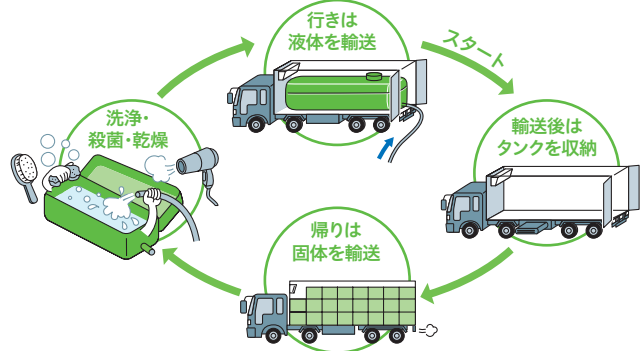


## ソフトタンクの活用

不二製油では、クリームなどの原料となる脱脂濃縮乳の輸送に「ソフトタンク※」を用いて、ラウンド輸送を実施しています。ラウンド輸送とは、トラックが製品を納入した後、ただ帰るのではなく、荷台に別の製品を積んで輸送する、効率的で環境にやさしいシステムです。

2012年度は、阪南工場と北海道のラウンド輸送に加え、関東圏にも拡大しました。これにより削減できたCO<sub>2</sub>排出量は、貨物1点あたりで390t-CO<sub>2</sub>と、前年度の115t-CO<sub>2</sub>の3倍以上になります。今後はラウンド輸送の対象品目をさらに拡大するとともに、より効率的な輸送方法を検討していきます。

## ▼ ソフトタンクによるラウンド輸送



※ 柔らかい素材を用いており、使用後に折り畳んで収納可能な液体輸送用タンク

## 水資源の保全

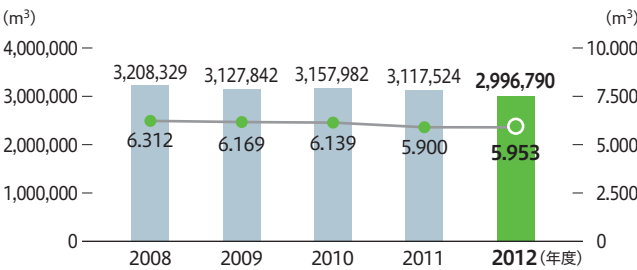
### 給排水量の削減

2012年度の不二製油及び国内グループ会社での給水量は、2011年度対比3.9%減の2,996,790m<sup>3</sup>となりました。各工場の地

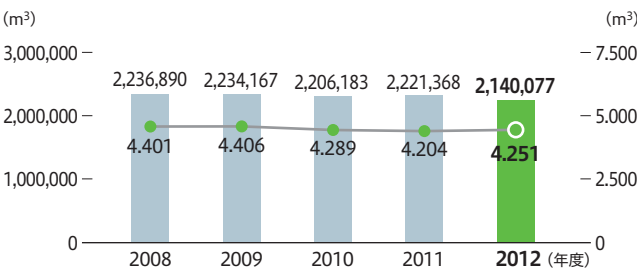
道な節水活動に加えて、生産量の減少も影響しています。一方、生産原単位では0.9%増加しました。

排水量についても、総量は2011年度対比で3.7%減となったものの、生産原単位は1.1%増加となりました。

## ▼ 年間給水量の推移



## ▼ 年間排水量の推移



## 資源の有効活用

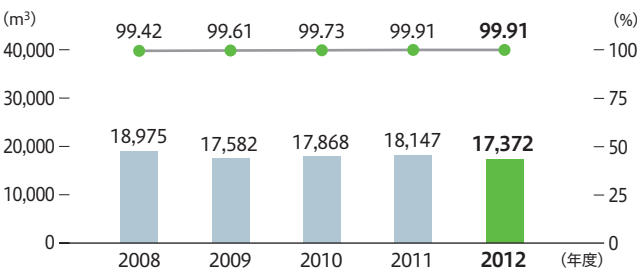
### 廃棄物の削減・リサイクル

#### 国内グループ全体で廃棄物を削減

2012年度の不二製油及び国内グループ会社の廃棄物排出量は、2011年度対比4.3%減の17,372tとなりました。生産量の減少に加えて、生産・販売の連携で在庫管理を強化することにより、製品廃棄を減少させる地道な努力の継続が奏効しています。

また、2011年に検討した燃えがら・ばいじんのセメント原料への再資源化を実績化することができました。国内での再資源化率は99.91%と、高いレベルで維持することができました。

## ▼ 廃棄物総排出量・再資源化率



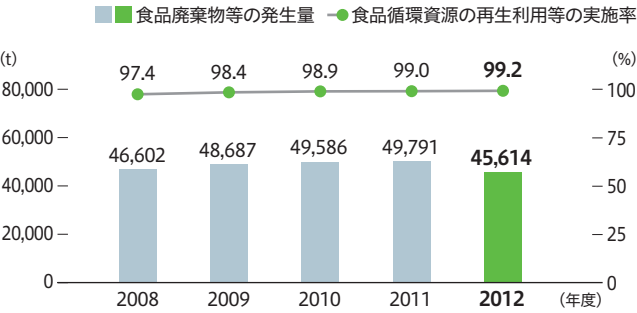
### 食品リサイクルへの取り組み

不二製油における、改正食品リサイクル法に基づく「食品廃棄物等」の発生量は、2012年度時点で約45,000tとなりました。一方、そのリサイクル率は99.2%と、これらの廃棄物の多くを資源として有効利用しています。

同法が食品製造業界に対して設けている目標は「食品循環資源

の再生利用等(食品リサイクル)の実施率85%以上」ですが、当社は目標設定当初の2007年度から97.3%と高い実施率を達成し、その後も維持し続けています。この水準を今後も維持すべく、取り組みを続けていきます。

## ▼ 食品廃棄物総発生量・再生利用



## 環境配慮製品

不二製油の研究開発本部では、製造工程で使用されるエネルギー量や、廃棄される加工残渣などの削減を目的とした開発に取り組んでいます。既存の製造工程の改善点を日頃から検討するとともに、新製品・技術の開発においても、環境保全への貢献を目的とする研究テーマを毎年設定して取り組んでいます。この際、指標を定めて改善を数値化するとともに、毎年の改善目標を設定することで、研究の進捗状況を評価しています。



これまでに、ココヤシからココヤシ油だけでなくマンノピオース※<sup>1</sup>を豊富に含む鶏ほかのエサ「MCM」を製造する他、おいしさを保ちながら長期間保管でき、廃棄物を減らせるフライ油「スーパータフロング」などの環境配慮製品を市場に送りだしてきました。

2012年度は、近年発表したUSS製法※<sup>2</sup>による大豆加工食品の生産プロセスでの、使用エネルギー量と加工残渣の削減や脱溶剤などに取り組みました。今後は、製造工程でのバイオ燃料導入や、原料植物からのより効率的な油脂採取方法の開発に取り組んでいきます。また、「フード・マイルージ※<sup>3</sup>」の考え方を取り入れた新製品なども企画していく予定です。

※<sup>1</sup> 植物油からつくられ、飼料添加剤に用いられる多糖類。家畜の細菌感染防止などの機能をもつ  
※<sup>2</sup> USS製法についてはP.12を参照  
※<sup>3</sup> 食品の輸送によって発生する環境負荷の大きさを、輸送量と輸送距離を掛け合わせた指標で比較評価する考え方

## 生物多様性の保全

### 「阪南の森プロジェクト」を継続

不二製油阪南事業所では、大阪府の「アドプトフォレスト制度※」を利用して2010年11月「阪南の森プロジェクト」を開始。泉佐野市上之郷の里山を保全しています。

具体的には、里山の生態系を守るため、繁茂した竹の伐採をはじめとする間伐作業などに継続的に取り組んでいます。また、道を整備するなど、森と人とがふれあいやすい環境づくりに取り組んでいます。2012年度は計9回の活動を行い、山頂に通じる遊歩道を整備し終えたほか、活動開始後初の植樹を実施しました。



### VOICE 担当役員から

国内グループで得たノウハウをもとに、  
今後は海外グループでの環境保全活動を促進していきます。

2012年度は、国内グループでは生産量の低下もありましたが、対前年約4%のCO<sub>2</sub>排出削減ができました。オフィス等での電気使用量削減も、2010年対比10%以上を継続しており、全社での取り組みが進行しています。給排水量・廃棄物排出量も減少しています。また、大豆の新しい分離技術による「脱溶剤」の環境配慮製品も生まれています。環境に配慮した事業活動を、継続して進めます。継続こそ力です。

海外グループでは、新会社(工場)の稼働もあり、対前年約2%のCO<sub>2</sub>増加となりました。海外グループでの省エネ・CO<sub>2</sub>削減に向け、国内グループからのサポートを進めます。



取締役常務執行役員 生産管理本部長  
兼 安全・品質・環境担当 兼  
生産担当 兼 阪南事業所長

高木 茂



# 「地域・社会」に関する取り組み

不二製油グループは、「食」「健康」「豊かさ」をテーマとした社会貢献活動を各社で検討、実施し、地域社会の一員として、より豊かな社会の実現に取り組んでいます。

## 不二製油の活動

### 不二たん白質研究振興財団による研究助成

不二製油は、大豆たん白質に関する学術研究振興を支援することを目的に、1979年、「大豆たん白質栄養研究会」を設立しました。同会は長年にわたって多くの研究者への助成を続け、1997年には文部省所管の財団法人、さらに2012年4月に公益財団法人として内閣府より認可されています。2012年度は33件に対して助成金を交付しました。また12月には2013年度の助成課題を公募し、応募100件から34件を採択しました。

本財団では、例年、助成した研究に携わる研究者を招いて研究成果に関する報告会を開催するほか、種々の分野でご活躍の講師を招いて大豆・大豆たん白質をテーマとした一般向け公開講演会も実施するなど、大豆たん白質研究の活発化を促すとともにその成果を広める取り組みにも注力しています。

2012年度は5月末に研究報告会を実施し、財団の公益移行を記念して、財団の歴史と実績についての展示も併せて行いました。また、10月には大阪市で公開講演会を開催しました。当日は、食糧・資源・健康の3分野の専門家を講師に迎え、大豆・大豆たん白質の歴史やその重要性について講演いただき、地域住民など400名以上の方に来場いただきました。



公開講演会の様子

### 東日本大震災の復興支援として「エコたわし」を販売

東日本大震災で被災された方々を応援したいとの思いから、被災地の方々が手づくりした「エコたわし」の社内販売を期間限定で実施し、合計365個が売れました。エコたわしは、家をなくされた方々の憩いの場を確保する目的でつくられた「みんなの家」に集まった方々が、少しでも社会の役に立ちたいと手づくりした作品です。今後も、少しでも被災者の助けになれるよう、さまざまな角度から取り組みを検討し、継続的に取り組んでいきます。



エコたわし

### つくば研究開発センターが市の公園に樹木を寄贈

つくば研究開発センターでは、2010年のセンター設立20周年に際し、地域貢献活動の一環として、つくばみらい市に建設中であった「みらいの森公園」にシンボルツリーを寄贈することを

決定し、市長へ目録を贈呈しました。公園は2013年4月にオープンし、近所の子供たちの憩いの場となっています。

なお、この公園を含むつくばみらい地区の開発は2013年に完了し、7月にオープニング式典が開催されました。当日は市長から当社つくば研究開発センター長へ感謝状が送られました。



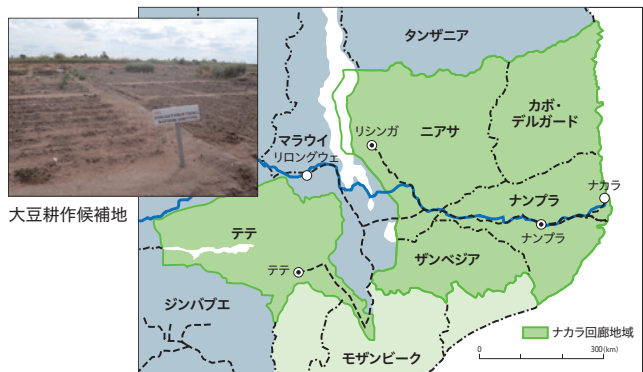
シンボルツリーとしてケヤキを寄贈

### モザンビーク・ナカラ回廊 農業開発支援プロジェクトへの参画

不二製油は、(独法)国際協力機構(JICA)と民間企業が共同で実施しているアフリカ・モザンビークでの農業開発支援プログラム「Pro SAVANA—JBM」に2011年から参画しています。

当該プロジェクトは、日本・ブラジル・モザンビークの三角協力のもと、ナカラ回廊地域の貧困な小規模農家を対象として知識・技術支援を行い、トウモロコシやキャッサバといった伝統的な作物の生産性を向上するとともに、大豆など付加価値の高い農作物の導入を試みるものです。さらに、投資家と農家の橋渡しをすることで、現地の主要ビジネスである農業の成長を促します。

不二製油はJICAが主導する現地への大豆の導入に関して技術面での支援を行っており、2013年5月に現地視察を実施。導入する大豆種の選定・品種改良の検討材料となるデータを国際熱帯農業研究所(IITA)モザンビーク事務所の農業試験場に提供し、意見を交換しました。将来的にはモザンビークで育てられた大豆を当社が現地で調達・加工することで、新たなビジネスを育てていくことも検討しています。現地の貧困解消と企業の発展を両立させるビジネスモデルの確立に取り組んでいきます。



ナカラ回廊地域。モザンビーク北部のナカラ港から隣国マラウイまでをつなぐ鉄道・自動車道(ナカラ回廊)沿いの5州からなる

### タイで大豆に関する研究アワードを設立

不二製油は、2012年、タイにおいて大豆に関する研究アワード「TDA Soybean Study Award」を設立しました。TDAとは「Thai Dietetic Association(タイ栄養士会)」の略で、タイの栄養士ほぼすべて(約600人)が所属しています。本アワードの名称は、協賛者である同団体にちなんだものです。

タイは東南アジアの中でも栄養学の専門教育や栄養士養成が進んでおり、今後、東南アジアの栄養学分野を牽引していくと予想されます。また、健康問題意識や健康食品へのニーズが高まっており、大豆ルネサンスを掲げる不二製油は、タイ人によるタイ人のための新しい大豆加工食品の提案や普及に貢献することを目指しています。

2013年5月には、バンコクで行われたタイ栄養士会年次総会にて、昨年採択された大豆の食品加工と栄養に関する研究6件の表彰式を行ったほか、当社研究員による大豆講演を行い、多くの栄養士が熱心に聴講していました。今年も当アワードへの多数の応募が期待されます。



表彰式の様子

## グループ会社の活動

### 地元的女子サッカーチームを応援(トーラク(株))

トーラク(株)は、地元・神戸の女子サッカーチーム「INAC神戸レオネッサ」を公式スポンサーとして応援しています。

2012年度は、これに加えて、同チームのホームグラウンドを兼ねて建設された女子サッカーチーム専用の練習施設「神戸レディースフットボールセンター」と、センター内のクラブハウスの建築に協賛し、資金提供を実施しました。2月からは、同チームによるジュニア選手向けサッカースクールにも協賛しています。

今後も引き続き「INAC神戸レオネッサ」を応援し、スポーツの振興を通じて地域社会の活性化に貢献していきます。



INAC神戸レオネッサの選手たち

### 小学生の社会科学習に協力(オーム乳業(株))

オーム乳業(株)では、自社工場を子供たちの社会科学習に役立てていただこうと、近隣の小学校から見学を受け入れています。2012年度は、延べ33校から、1,672名の児童を受け入れました。

見学時には従業員が講師となり、講義形式による説明や工場見学を行っています。子供たちは毎日給食で飲んでいる牛乳が生産ライン

から出てくる様子に目を輝かせ、見学後には次々と従業員に質問を投げかけていました。また、講師を務めた従業員からは「思いもよらない質問もあって、逆に勉強させられた」「子供たちの、明日からもっとおいしくいただきます!という言葉に誇らしさを感じた」といった感想があがるなど、従業員が「食」を提供する仕事の面白さや責任を再確認し、意欲を高める機会ともなっています。



従業員による講義の様子

### 児童福祉施設を訪問(フジオイルタイランド社)

2012年6月、フジオイルタイランド社開発・品質管理保証部門の従業員9名が、地元タイの児童福祉施設を訪問し、子供たちと交流しました。当日従業員達からはお米、食用油、その他食品を寄付し、お礼として子供たちからはダンスや歌が披露されたほか、手づくりのヤシの木の置物が従業員にプレゼントされました。



児童福祉施設を訪問

### 大学生・高専生が油脂事業の実務を体験

(パルマジュエディブル オイル社) 

マレーシアのパルマジュエディブルオイル社では、次代の技術者の育成に協力するため、地元地域の大学・高専からインターンシップを受け入れています。メカニカルエンジニア志望者は工務部で、ケミストリーエンジニア志望者は品質管理部で、従業員と共に油脂製造工場での実務を体験していただいています。

2012年度は、大学生3名を2カ月間、高専生2名を約5カ月間、それぞれ受け入れました。今後も継続的に実施していきます。

### 大学生向けの現場研修を実施

(ニューレイテエディブル オイル社) 

ニューレイテエディブルオイル社では、次世代教育支援に取り組んでいます。

2012年度は、地元の大学生に現場研修を通して工場の技術を学んでもらうことを目的に、17名の学生を受け入れました。1カ月～3カ月間にわたる工場での勤務を通して、技術の魅力や、働くことのすばらしさを体感いただきました。今後も継続的に実施していきます。



社員が指導しての現場作業体験

#### WEB掲載情報

●不二製油(株)の活動  
—不二たん白質研究振興財団による研究助成  
表…助成先一覧  
(2011~2012年度)

●人材育成  
—タイで大豆に関する研究アワードを設立  
表…受賞内容(2012年度)



# 「CSR基盤」に関する取り組み

不二製油グループは、事業活動の基本となるコーポレート・ガバナンスの強化に継続的に取り組み、CSR活動の基盤を強固なものとしています。

## コーポレート・ガバナンス

### コーポレート・ガバナンス推進体制

不二製油の組織体制は会社法上の監査役会設置会社にあたり、株主総会を頂点として、その下に取締役会、監査役会を置いています。

2013年3月に、社長及び経営会議の諮問機関として、「安全品質環境委員会」「リスクマネジメント委員会」「企業風土委員会」の3委員会を新設しました。また、これに伴って既存の諮問機関である「行動規範委員会」の名称を「コンプライアンス委員会」と改め、4つの委員会による諮問体制を整備しました。

「安全品質環境委員会」「コンプライアンス委員会」「企業風土委員会」の3委員会は、各々の担当分野の全社的専門委員会として、各分野での企業価値の毀損防止や危機発生時の迅速な対応に取り組めます。「リスクマネジメント委員会」の活動は、「リスクマネジメント体制の構築」に記載の通りです。

## コンプライアンス

### 専門の委員会を設置し、体制を整備

不二製油では、2013年4月、常設組織である「行動規範委員会」の名称を「コンプライアンス委員会」と改めました。本委員会が、「不二製油グループ行動規範」に基づいてグループ全体の行動規範に

関する重要な事項を審議し、社長・取締役会に具申することで、法令遵守の徹底及び不二製油グループ行動規範の浸透を図っています。委員会の活動内容は、定期的に社長及び経営会議に報告されます。

このほか、グループ会社を含む全部門を対象としてコンプライアンスに関わる事象をモニタリングするコンプライアンス推進委員を任命し、四半期に一度「コンプライアンス推進委員会」を開催しています。本委員会はコンプライアンス委員会の下部組織として、社内にコンプライアンス違反に該当する事例がないか確認するとともに、違反リスクの洗い出しを行います。違反が発生した場合には、その改善策の策定ならびに実施状況報告を行います。

### コンプライアンス教育の実施

不二製油では、コンプライアンス研修を不二製油の各部門と国内外グループ会社を対象に毎年実施しています。これらの研修は、適宜テーマを選定の上、階層ごと、部門ごとに行っており、2012年度は計20回の実施で約400名が受講しました。

また、弁護士などの外部講師による勉強会も毎年実施しています。これは、業務に密接に関わる法令や法律について学習するもので、コンプライアンス、行動規範、情報管理、不正競争防止法、契約法務、与信管理などテーマは多岐にわたります。関連部署から都度参加者を募集しており、2012年度は約350名が参加しました。

2013年度は、こうした施策に加えて、社内報を通じた定期的な情報発信など、新たな施策も実施していく予定です。

## リスクマネジメント

### リスクマネジメント体制の構築

不二製油では、企業価値の毀損から自然災害などの危機の発生、将来の収益機会の減少までをリスクと捉え、その見える化を図るとともに、随時対策を実施し、企業価値の向上を図っています。

「安全品質環境委員会」「企業風土委員会」「コンプライアンス委員会」の3委員会が各担当分野でのリスク対応策の検討・報告などを行い、これらの活動について「リスクマネジメント委員会」がフォロー・調整などを行うとともに、この3委員会の担当する範疇にないリスクへの対応策を検討・策定し、結果を社長及び経営会議に具申する役割も担っています。

### 大規模災害を想定した事業継続計画 (Business Continuity Planning: BCP) の作成

不二製油では、大規模災害の発生を想定し、事業活動の継続あるいは迅速な再開に向けた手順を示した「地震災害事業継続計画」及び「不二製油中央災害対策本部規定」をかねてから策定しています。

これに加えて、2012年度は、南海トラフ巨大地震発生を想定した生産代替の第1次シミュレーションを作成しました。2013年度は、第1次シミュレーションの課題に対する会社方針と対策案の策定を進めます。

### 知的財産権の尊重

#### 権利侵害を防ぐ体制の構築

不二製油グループでは、「不二製油グループ行動規範」に準じて、「社内発明等取扱規程」及び「不二グループ知的財産管理規程」の中で知的財産権の取り扱いなどについて定めています。従業員にこのルールを浸透させることで、自社の権利を保護するとともに、他者の権利を侵害することがないようにしています。

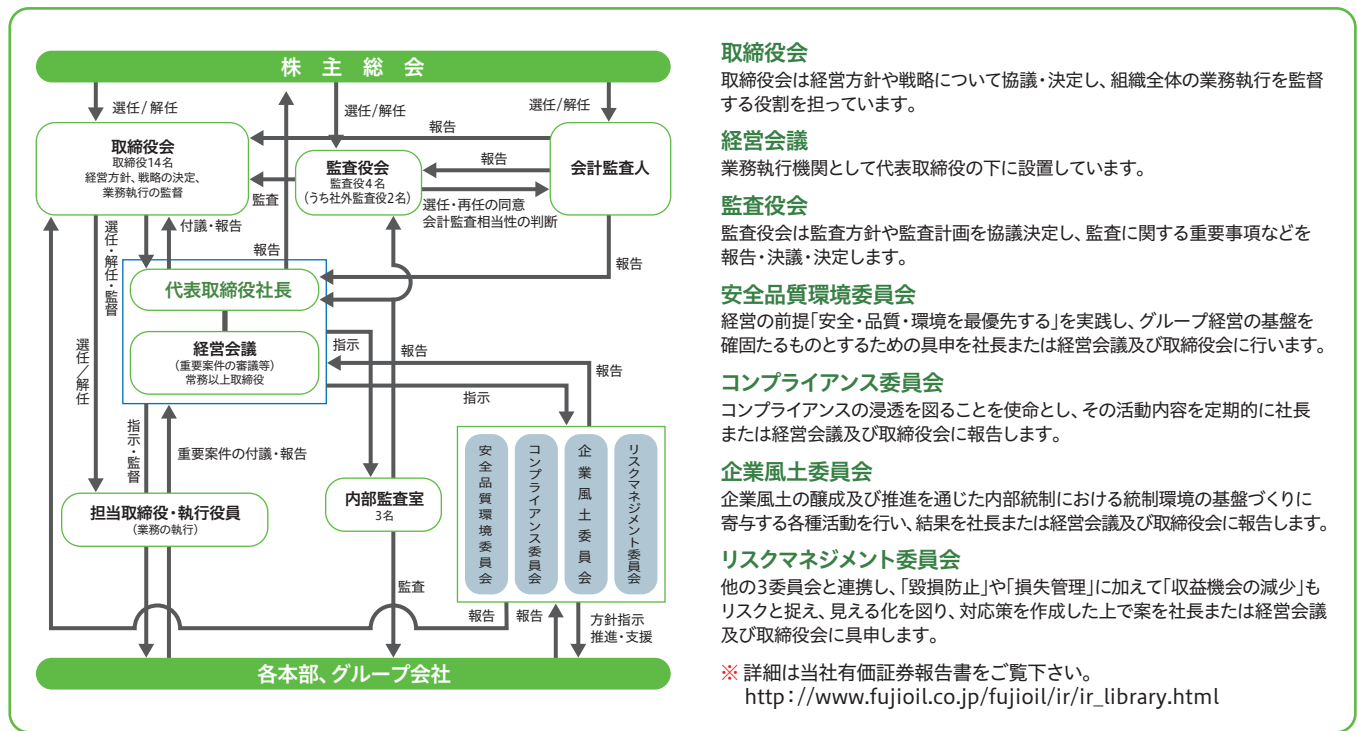
また、従業員が会社の業務に有益な発明をしたときは、その権利を会社に帰属するものとするかわり、発明者に対して報酬を支給するなど、公正に補償を行うようこれらの規程に明記しています。

### 知的財産権教育

不二製油では、知的財産に関する正しい知識を研究開発職の従業員に浸透させることを目的に、研修や勉強会を随時実施しています。

毎年、入社6カ月後の研究開発職の新入社員を対象とした講習会を実施しています。2012年度は10月に実施し、知的財産権の概要や意義、社内発明等取扱規程の内容について説明しました。さらに、入社2～3年目の研究開発職及び技術開発職の従業員を対象に、特許明細書作成研修を毎年実施しています。研修では、知的財産権について説明した上で、特許明細書の作成を体験してもらっています。このほか、隔月で開発部門別に知的財産権関係の相談会を実施しています。さらに、2012年9月には、開発主要メンバーを対象として、知的財産権制度に関する勉強会を開催するなど、継続的に教育を実施しています。

### ▼ コーポレート・ガバナンス体制図



### VOICE 社外取締役から

昨年まで、このCSRレポートに第三者意見を寄稿する立場にありましたが、第85回の定時株主総会で社外取締役に選出され、独立役員の職責を担うことになりました。まだ取締役会には一度しか出席しておりませんので、今回は初心を記すことにいたします。

不二製油は主に食品業界の黒子という立場を貫いてきた会社です。それゆえ消費者には馴染みの薄い会社と映りますが、皆様が購入されるチョコレートやスイーツ、はたまたハンバーグには、裏側で不二製油が支えているものがたくさんあります。支える最終商品が多岐にわたるため、社会で担う役割は見かけより遥かに大きいのが実情です。

この黒子の世界では、何よりも群を抜いた技術力が必要とされます。消費者の皆様が買いたいと思われる「とき」と「ところ」に商品を切らさないように用意しておくことは、簡単なことではありません。それを「おいしい」と両立させた上で、さらに「びっくり」を生み続けるとなると、食品メーカーの苦心のほどは察して余りあります。そういうメーカーを裏からサポートできる黒子は、世界広しと言えど何社もなく、そこに不二製油の存在意義があるのです。

黒子にはマーケティング力も欠かせません。お取引のないところも含めて、消費者と向き合う食品メーカーが抱える課題を深く理解した上で、新しいレシピを次から次へと提案していかなければならないからです。それを手当たり次第やったのでは事業効率が上がりません。

こういう技術力やマーケティング力に秀でる社内取締役の方々が集まる場に、私としては彼らと同じ言語体系を用いつつ経営戦略やCSRの視点をもちこむことで、ダイバーシティを高めることができればと考えております。その成果については、追ってご報告する所存です。



神戸大学大学院  
経営学研究科 教授

三品 和広



## 情報セキュリティ

### 技術対応の推進

不二製油では、情報セキュリティの確保に向けた技術的な対応に継続的に取り組んでいます。社外からもちこんだUSBメモリーなどの外部記憶媒体を社内のパソコンに許可なく接続できないよう制限を設けているほか、ログ監視システムを導入するなどして情報セキュリティを高めています。

### ルールの策定と社員教育の徹底

情報セキュリティ向上には、ルールを策定し、厳格に運用していくことが重要です。不二製油では、「情報システムセキュリティ運用規程」を定め、それに基づく情報管理教育を実施しています。

2012年度は、情報システム部のスタッフが他部門に講師として出向き、部門研修と併せて情報セキュリティ教育を実施しました。また、社外の有識者を講師に招いて情報管理勉強会を実施しました。今後も継続的に社員教育を実施していきます。

2013年度は、SNS利用時に想定される脅威とその対策や、携帯端末の使用ルールを盛り込んで、「情報システムセキュリティ運用規程」を見直す予定です。また、さらなるセキュリティ強化のため、第三者機関による情報リスクアセスメントの受審も検討します。

## 株主・投資家とのコミュニケーション

### より内容を理解いただきやすい 株主総会・説明会の実施

不二製油は、2013年6月に第85回定時株主総会を開催し、642名の方に出席いただきました。

総会では、説明資料を投影するスクリーンを会場内に複数設置するとともに、総会前には当社の企業理念や事業について紹介する映像を投影するなど、より説明内容を理解いただきやすいよう工夫を凝らしています。併せて、株主の皆様がスムーズに議決権を行使できる環境の整備にも取り組んでいます。その一環として2012年から「議決権電子行使プラットフォーム」に参加しており、インターネットを通して議決権を行使できるようにすることで、円滑な議決権行使を可能としています。

食品業界紙の記者や証券アナリストの皆様を対象とする決算説明会は、社長出席のもと、年に2回開催しています。この際に用いた説明資料は迅速にホームページに掲載し、ご参加いただけなかった皆様にもご覧いただけるようにしています。



株主総会の様子

#### WEB掲載情報

- |   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| ●コーポレート・ガバナンス<br>―コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方<br>―監査役による経営の監視<br>―役員報酬などについて | ●リスクマネジメント<br>―リスクマネジメントの基本的な考え方<br>―リスクアセスメントの実施とリスクマップの作成<br>―大規模災害を想定した地震災害BCPの作成<br>図・・・地震BCP体制図<br>表・・・実施した施策の例 | ●コンプライアンス<br>―基本的な考え方<br>―グローバル行動規範の策定と発信<br>―コンプライアンス推進体制・内部通報窓口の設置 | ●情報開示<br>―基本的な考え方<br>―株主の皆様との積極的なコミュニケーション<br>―年次報告書・中間報告書の作成 |
| ●CSRマネジメント<br>表・・・認証取得状況など  |  | ●公平・公正な取引の実践   | ●利益還元   |

### VOICE 担当役員から

## 新たな体制のもと、CSR経営を推進します。

「CSRは経営そのもの」。これが不二製油グループのCSRに関する考えです。その中で経営企画本部は、不二製油グループの目指す姿を表した「FUJI WAY」に基づき経営方針を具体化するとともに、CSR基盤の構築・強化に取り組み、社会からの信頼の獲得と会社の魅力の創出による企業価値の向上を目指します。

2012年度は、国連の提唱する人権・労働・環境・腐敗防止の10原則からなる「国連グローバル・コンパクト」への支持を表明、参加しました。ガバナンス部分では、2012年度中に取締役会・経営会議の諮問機関として、安全品質環境、コンプライアンス、リスクマネジメント、企業風土の4委員会の設置を決定しました。

2013年度はこれらの委員会に海外グループ会社を含め、体制整備と活動の充実を図り、CSR経営をさらに推進していきます。



取締役常務執行役員  
経営企画本部長 兼 リスク管理担当

久野 貢

## 第三者意見



神戸大学大学院 経営学研究科 教授

小川 進 氏

1989年神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期終了。  
1998年経営学博士(マサチューセッツ工科大学)取得、  
2000年商学博士を取得し、2003年より現職。  
マーケティング、イノベーション管理、ビジネスシステム論を専攻。  
主な著書に『ダイヤモンド・チェーン経営』『稼ぐ仕組み』(日本経済新聞社)など多数。

### 特に評価したい点

今年度から第三者意見をお引き受けすることになりました。まず外見からですが、読み手に読む気にさせる色彩豊かで綺麗な報告書になっていると思います。この仕上がりを見るだけでも不二製油グループがどれだけCSR活動に力をいれているかを察することができると思います。

次に、表紙裏に小さく書かれている「編集方針」がすばらしい。重要度の高い活動は本レポートでそれ以外のものはWEBサイトでと、情報を取捨選択してステークホルダーに本当に伝えたいエッセンスを伝えようという姿勢が明確にでていると思います。さらに中味についても目次(INDEX)を見れば、フォントの大きさに特に読んでもらいたいトピックがわかるように工夫されています。読者に報告書の読み方を上手にガイドするものになっていると思います。

中味についても毎年、第三者から指摘されている内容を真摯に受け止め、改善していることが分かります。2011年度から取り入れられている不二製油グループ製品マップはイラストを使ったとてもわかりやすいもので、細かいところでよりよいものになるように修正が加えられています。第三者意見で昨年度、高い評価を受けた「不二製油のCSR課題と取り組み」(23ページから26ページ)も引き続き丁寧に仕上げられています。

### 今後に期待したい点

以上のようにとてもすばらしい取り組みをされている一方で今後、改良が期待できる点がいくつかあるのも事実です。まず、上ですばらしさを評価させてもらった「編集方針」ですが、報告書のすみっこに小さい字で書かれています。これでは読み手が見落としてしまうかも知れません。もっと大きな文字サイズで報告書の中心で説明される方が好感を持たれるのではないのでしょうか。また、本報告書の主題そのものであるCSRについての説明は21ページまで待たなければなりません。グループのCSRについてステークホルダーに理解

してもらふことはとても重要なはずですから前半の早い段階で説明されるのがよいのではないかと思います。

さらに前年度の第三者意見で役員の顔が見えるようになったことが高く評価されていましたが、今年度はそれがトーンダウンしているように見えます。前年度に表明した各役員のコミットメントのうち、何が達成され、何がまだ課題のままなのか、それは何故かについて役員自身の声で説明していただきたかったと思います。それに関連して上で取り上げた「不二製油のCSR課題と取り組み」の表についてですが、評価が○と△で表現されています。○の場合はどのように達成できたのか、△はそもそも取り組んだのか、取り組んだ場合、どうして十分な評価を獲得できなかったのか、についてページを改めてでもよいので十分な説明があればよかったのではないかと思います。加えて評価を○、△だけでなく◎と×を加えてよいかもしれません。そうすることで不二製油グループのCSRに対する真摯な取り組みがさらに外部から評価されるようになると思います。

最後に、重要度に応じて本レポートとWEBサイトへの書き分けを行っていることをすばらしいと書きましたが、本レポートを読んでいるとWEBサイトにまわしてもよいのではないかなと思うものが少なからず散見されました。ある仕事に対応した組織がたちあがると組織維持のために(本来なら不必要かも知れない)仕事をメンバーが作りだしてしまうということがしばしば起こります。とりわけ毎年、継続的に行われる報告書の作成では起こりがちで、それまで掲載してきた内容の上に、新しい内容を上乗せしてしまい、結果として報告書がどんどん厚く重くなっていくことが起こりがちです。その点でWEBサイトに掲載する内容はともかく本レポートについてはわかりやすく、良質かつ必要不可欠な情報だけにいかに掲載内容を「そぎ落としていく」かが重要だと思います。そうした意味で来年度は本レポートが見かけは少々薄くなっても、中味はどれも読み逃したくない濃いものになっていることを評者としては期待したいと思います。



二つとない、をつくる。



お問い合わせ先

不二製油株式会社 社長室CSRグループ

〒598-8540 大阪府泉佐野市住吉町1番地

TEL / 072-463-1295 FAX / 072-463-1659

e-mail / [csr@so.fujioil.co.jp](mailto:csr@so.fujioil.co.jp)



この印刷物は環境に考慮し、ベジタブルインキ・水なしオフセット印刷で制作しています。